

令和5年度実施分
協働事業・市民活動助成事業
公開プレゼンテーション審査資料

(傍聴者用)

目次(プレゼンテーション発表順)

No	区分	事業名	団体名、事業担当課名	スタート	ステップアップ	協働	ページ
1	2回目	地域まるごとで孤育を予防する連携システム事業	まつどでつながるプロジェクト運営協議会			○	1
			子ども政策課				
2	3回目	「まつどの介護」プロモーション事業	特定非営利活動法人 SmileResource			○	7
			介護保険課				
3	新規	まつど de SDGs の輪を広げようプロジェクト事業	まつど地域活躍塾つながりの会			○	13
			政策推進課 市政総合研究室				
4	3回目	料理教室を通じた父親の意識改革事業	MAISON IZARRA Oyatsu labo * T naturel メゾン イザラ おやつ ラボ*テ ナチュレル			○	19
			男女共同参画課				
5	2回目	日本語を母国語としない子どものための学習支援事業	認定NPO法人 外国人の子どものための勉強会			○	25
			国際推進課				
6	2回目	町会・自治会の活動をPRして親しみをもってもらおう事業	できる街プロジェクト			○	31
			市民自治課				
7	2回目	高塚新田付近の多世代交流型居場所事業	梨っこ食堂	○			37
8	新規	漫画・アニメ・ライブ配信で松戸の魅力PR事業	超普通スタジオ		○		41
9	2回目	冒険山開放に伴う見守り事業	冒険山開放委員会		○		45
10	新規	松戸市内廃棄食糧再利用事業	おからを食べよう会	○			49
11	新規	「おひとりさま安心生活相談」事業	特定非営利活動法人 おひとりさま安心コンシェルジュ	○			53
12	新規	「eスポーツで松戸くるくる、はじめのいっぽ」事業	松戸eスポーツ準備会	○			57

目次(プレゼンテーション発表順)

No	区分	事業名	団体名、事業担当課名	スタート	ステップアップ	協働	ページ
13	2回目	四世代のきずなで、豊かな生活環境を実現する事業	小金原みんなでわくわくする会	○			61
14	2回目	ときわだいらオープンアトリエ事業	特定非営利活動法人 ディープデモクラシー・センター		○		65
15	2回目	[生きづらさ・ひきこもり]一人ひとりに合わせてつながりが広がる事業	生きづらわーほりプロジェクト		○		69
16	2回目	みんなで育て、みんなでつくる 沿道での食べられる景観事業	エディブルウェイプロジェクトチーム		○		73
17	新規	不登校の子どもたちの居場所づくり事業	EdFuture	○			77
18	新規	「食」と「イベント」による体験型子ども食堂事業	スープキッチンにじいろ	○			81

No. 1

《 協働事業 》

地域まるごとで孤育を予防する
連携システム事業

まつどでつながるプロジェクト運営協議会

子ども政策課

事業計画

事業名	地域まるごとで子育てを予防する連携システム事業
団体名	まつどでつながるプロジェクト運営協議会
事業担当課	子ども政策課

事業概要
核家族、経済的貧困、一人親、子・親の障がいを抱えた世帯など、子育てにおいて困難を抱えながら地域で孤立し、支援につながりづらい家庭が、官民の連携により必要なサポートにつながる可以实现するシステムを実現する。

松戸市の課題	<p>核家族化、経済的貧困世帯、ひとり親世帯の増加、子・親の障がいを抱えた世帯、外国人家庭など、子育てにおいて困難を抱えながら地域で孤立し、支援を必要とする家庭が増えている。</p> <p>(関連する課題の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●松戸市における虐待の相談対応件数は約10年で約4倍に増加(2011年度…年間310件⇒2020年度…年間1317件)※子ども家庭相談課資料 ●小学生～中学生の子どもの約4人に1人が生活困難層(困窮層・周辺層) (小学5年生…困窮層7.3%・周辺層16.2%、中学2年生…困窮層8.9%・周辺層16.2%、ひとり親世帯にしぼると約半数が生活困難層)※2019年3月松戸市子育て世帯生活実態調査より引用 <p>上記のような多様化する家庭の課題がある一方で、公的な支援だけでは、問題の解決に向かわないケース、そもそも支援につながることができていないケースも多くある。社会から取りこぼされることなく、より良く子育てができる環境や暮らしを支えるためには、官民協働で地域の力を活かすことができる仕組みづくりが必要であると考えます。</p> <p>(2022年度の協働事業で実施した円卓会議で挙げた課題感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●行政、他団体との情報共有の難しさ <ul style="list-style-type: none"> ・学校や関係機関との情報交換が難しい。一方的に情報を提供するだけで、情報を開示してもらえない。 ・地域ごとの活動の情報が共有されていない。近い地域で集まって情報共有できると良い。 ●当事者と支援者のつながりづらさ <ul style="list-style-type: none"> ・本人から手があがらないと支援できない。情報を渡すことができない。 ・本人が困難さに気づいていない、自らつながりたくないケースがある。 <p>⇒どちらも特に行政は関係性を作りづらいという実情がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職として抱えているケースの件数が多く、気になっている方でも2、3か月に一度電話する程度になってしまっている。
事業の目的	<p>本事業では、子育て～子どもの成長を取り巻く負の連鎖の予防・緩和・解決に向けて、行政と民間団体、企業、地域住民が協力し合うことのできる仕組みづくりを目的とする。</p> <p>その中で特に、官民それぞれの支援者間の連携を促進するための地域円卓会議の推進と発展、および日常生活の中で子育てに寄り添うことができる市民サポーターの育成と地域で活躍できるネットワークづくりを目指す。</p>

	<p>●地域円卓会議の目的…主として対象年齢ごとに関わる行政・民間それぞれの支援者が集まり、現状の取りこぼされている課題について共有し、対話する中で相互の連携に向けた関係づくり、および解決に向けて検討する。</p> <p>●市民サポーター育成の目的…資格を伴う専門職ではなく、一般市民の中で日常的に子育てを見守り、あたたかい声掛けができる市民サポーターを増やすことで、地域の網の目を細かくし、孤立を予防する。</p>
事業内容	<p>①子育て当事者の声を真ん中にした地域円卓会議の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政・福祉専門職・子育て支援 NPO・子ども食堂など、子育てに関わる多くの機関や団体が集まり、それぞれが感じている現状の課題感の共有と子ども・子育て当事者が置き去りにされない議論を通じて、本質的な子育てのしやすさを目指した対話の場を行う。 ・個人個人の相互理解を育むことを基盤に、それぞれが持っているピース(資源)を持ち寄り、支援とそれを必要としている人が適切につながる体制を生み出していく。具体的には円卓会議で挙げた論点の中から、実現していきたいテーマについて検討する場を別途設ける。 <p>(例) 2022 年度円卓会議より…妊娠期～2 歳において、特に所属のない子ども(無園児)と親が地域でつながりを作れる仕組みについて検討中。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 円卓会議について、参加者は 20～30 名程度で年間 3 回を予定 ■ 取り上げるテーマの例(乳幼児期、児童期、青年期) ■ 2 年目ではさらに発展し、円卓会議で挙げた具体的なテーマについて、さらに踏み込んで検討する場づくり(検討ワークショップ)を行う。 <p>②地域の孤育てを予防する市民サポーター養成講座の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民サポーターについては、既存の支援の仕組みや最初につながるができる相談窓口を学び、当事者に必要な情報を伝えることができる地域人材を増やすことを目的とする。そのため既存にある民生委員や子育て支援員といったものとは異なり、肩書きを持つことを前提にはせず、現代の子育て事情などを理解して日常で寄り添うことができるような学びの場を実施する。講演会のみを受講した「市民サポーター」と、その中でさらに具体的に活動する意欲のある方を対象とした連続講座を受講した「応援隊」の 2 段階で担い手を広げていく。 ■ 1 年目のカリキュラム実施の成果を踏まえた上で、さらにより良い内容にブラッシュアップすると共に、講座を受講した方々が活躍できる実践の場とのマッチングに取り組む。 ■ 幅広く市民に知ってもらう機会を設けるために、初回は講演会という形式で間口を広げた企画を行い、その後連続講座につなげていく。 <p>①②に共通する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 開催方法はコロナ禍の状況に応じてオンラインによる実施も想定することで、感染拡大時にも事業を推進する。 ■ 2 年目では実施により得られた成果を地域に共有することを目的として、外部のレポーターによる記録の可視化(グラレコ等)に取り組む。記録については、弊会のホームページや SNS などで発信していき、街で子ども・子育てを育むことへの関心を高めていく。

	年間予定	地域円卓会議	市民サポーター養成講座
	共通	実施体制：構成員 対象：官民それぞれで子育て支援に携わる方 場所：松戸駅周辺公共施設	実施体制：構成員 対象：子育て支援に関心のある一般の方 場所：松戸駅周辺公共施設
	4月	年間予定、テーマ検討	年間予定の検討
	6～7月	★第1回開催～ふりかえり	カリキュラムの見直し
	8月～9月	検討ワークショップ	講演会企画の検討
	10月	★第2回開催～ふりかえり	↓ チラシ作成～配布
	11月～12月	検討ワークショップ	講演会の実施～連続講座
	2月	★第3回開催～ふりかえり	実施のふりかえり
	3月	検討ワークショップ	
事業の目標	<p>○地域円卓会議の開催…原則として年3回の実施（延べ80名の参加者）を予定。またその後検討ワークショップを最低3回実施し、実践につながる事例を目指す。</p> <p>○市民サポーター講演会および養成講座の実施…子育てを街で支えることを幅広く周知するための講演会（年1回、50名の集客を目標とする）および、連続講座の受講生20名を目指す。</p>		
協働の必要性 （団体）	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂や子どもたちの居場所づくりをしている民間の活動において、地域で出会うことができた困難を抱える家庭に対して、行政の支援が必要だと感じた際に、つなげる先が不明であったり、顔が見えていない関係で情報共有しづらいといった課題があるため、円卓会議のように開かれた場で支援者同士が対話できる機会が必要である。 ・協働事業で進めることによって、行政機関に参加してもらいやすくなることを期待する。また市民サポーターの募集にあたって、広報まつどへの掲載をはじめ、広く市民にPRできる連携を図っていきたい。 		
協働の必要性 （市）	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の子育て支援施策においては、解決すべき課題が多様化、複雑化しており、さまざまな主体の参加と連携が必要となっている。現在、民間との連携において、お互いを知る場や情報共有する機会が少ないのが現状である。 ・社会全体で子育てを支えていく機運を高めていくためには、市民の方々の参加が必要となる。子どもと子育て家庭を温かく見守り、必要なときに声を掛け合うなど、子どもや子育て家庭に関心を持つ人を増やしていきたいと、考えている。 		
事業実施の役割分	<p>① 団体…民間ネットワークへ声掛け、会議や研修の設計と場づくり・運営</p> <p>② 担当課…庁内の各部署との橋渡しや調整、会場の確保、市民へのPR</p>		
今後の展望	<p>1年目…官民が信頼関係を築くことのできる場づくり、市民参加を促すための市民サポーター養成講座の構築 →本年度中に達成する見込み</p> <p>2年目…より開かれた場で多くの支援者が交流することができる場づくり、市民サポーター養成講座の展開（人数拡大）</p> <p>3年目…課題の共有から課題解決につなげる仕組みづくり、講座を受講した市民サポーターの活躍の場とのマッチング</p> <p>※3年をかけて、継続のための会員制度の構築、寄付サポーターの募集などを行っていく。</p>		

事業の予算計画

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 301,148	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 18,000	団体の会計より拠出
	参加費	¥ 20,000	養成講座参加費（1000円×20名）
	自己資金の合計額 (B)	¥ 38,000	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 334,000	
合計額 (D) = (B + C)		¥ 372,000	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 170,000	地域円卓会議レポート謝礼 （円卓会議・講演会・養成講座） 5,000円×5名=25,000円 100,000円 外部講師謝礼（講演会） 15,000円×3回=45,000円 外部講師謝礼（連続講座）
	消耗品費	¥ 11,000	プリンター用インク 2,500円×2セット ワークショップ用付箋など 300円×20個
	印刷製本費	¥ 35,000	資料印刷費（円卓会議） 5円×10部×100セット チラシ印刷（養成講座） 5円×3,000枚 テキスト印刷（養成講座） 150円×100部
	委託料	¥ 130,000	デザイン費（養成講座チラシ・テキスト） 30,000円×1回 50,000円×2回
	使用料及び賃借料	¥ 10,000	会場使用料（養成講座） 500円×4時間×5回
	通信運搬費	¥ 16,000	郵便（定形外） 400円×2回×20名（テキスト送付）
	対象経費の合計 (E)	¥ 372,000	
（その他経費）			
	その他経費の合計額 (F)	¥ 0	
合計額 (G) = (E + F)		¥ 372,000	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間回数×953円
	円卓会議打合せ	17,154 円	3 人 × 2 h × 3 回 × 953 円
	円卓会議準備	22,872 円	2 人 × 4 h × 3 回 × 953 円
	円卓会議本番	34,308 円	3 人 × 4 h × 3 回 × 953 円
	検討ワークショップ準備	17,154 円	3 人 × 2 h × 3 回 × 953 円
	検討ワークショップ実施	17,154 円	3 人 × 2 h × 3 回 × 953 円
	円卓会議ふりかえり	25,731 円	3 人 × 3 h × 3 回 × 953 円
	養成講座打合せ	28,590 円	3 人 × 2 h × 5 回 × 953 円
	養成講座準備	38,120 円	2 人 × 4 h × 5 回 × 953 円
	養成講座本番	57,180 円	3 人 × 4 h × 5 回 × 953 円
	養成講座ふりかえり	42,885 円	3 人 × 3 h × 5 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
		人 × h × 回 × 953 円	
		人 × h × 回 × 953 円	
		人 × h × 回 × 953 円	
		人 × h × 回 × 953 円	
		人 × h × 回 × 953 円	
合 計 (A)	301,148 円		

No. 2

《 協働事業 》

「まつどの介護」プロモーション事業

特定非営利活動法人 SmileResource

介護保険課

事業計画

	事業名	「まつどの介護」プロモーション事業
	団体名	特定非営利活動法人 SmileResource
	事業担当課	介護保険課
事業概要		
<p>松戸市の介護（介護制度）を動画化しプロモーションすることで“介護の見える化”を図り「分かりやすくして利用しやすい松戸市の介護」の促進を目指す事業を実施する。</p>		
松戸市の課題	<p>超高齢化社会となった我が国では、毎年7万人近くも介護離職者が発生しています。これから迎える2025年問題。更に高齢者人口が増加し、雇用や医療、福祉などに様々な影響が出ることが予想されています。介護問題と介護離職問題もその重要な課題です。</p> <p>課題①「市民への周知度向上」</p> <p>松戸市の介護支援体制は多くの資源を準備しており手厚い体制だと思います。市民の「松戸の介護体制」に対する認知度も上がってきていますが、今後も更に高める必要があります。</p> <p>そのために「いつでもどこでも、手軽に松戸市の介護サービス情報を“見る、知る、聞く”ことができる」資源（動画）は効果的です。</p> <p>課題② 高齢化社会を支えるために「若者の力を活用したい」</p> <p>地域における高齢者支援は高齢者（地域活動）が支えている印象がありますが、介護に携わる若いマンパワーも多く存在しています。その若いマンパワーを活かす取組みが必要です。</p>	
事業の目的	<p>この事業は次のことを目的として進めていきます。</p> <p>課題①の解決策として、松戸市の介護制度を動画化し、「誰もが、いつでもどこからでも（自宅、仕事場、市外、病院のベッドの上等）手軽に楽しみながら「松戸の介護」の情報を得られる」ようにすることです。</p> <p>課題②の解決策として、令和4年度からは千葉県立松戸向陽高等学校さんらの協力を得て、在学中の福祉教養科の学生さんがボランティアとして参加中です。学生さんと活動することで「若者が参画した介護」の情報を発信し、老若男女問わず松戸の介護に関心を寄せていただき、高齢者福祉の課題を松戸市全体で支えていく体制をより強固なものにしていくことです。</p>	
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>市内に幅広く整備されている介護支援体制（行政、事業、市民活動等）を動画化し、下記のYouTubeチャンネルにアップロードすることで「松戸の介護の見える化」を行う。</p> <p>○YouTubeチャンネルへの動画投稿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投稿先：介護保険課まつどDE介護ちゃんねる <p>○介護支援体制及び介護事業所（サービス内容等）の動画制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に取材・撮影する種別サービス等 介護施設、通所事業所、訪問系事業所、福祉用具事業所、介護人材等 その他、介護に関する取組み（行政や地域における活動等） 	

- ・撮影スタッフの構成（1ロケあたり）
団体スタッフ1名～2名 ボランティア（学生さん等）2名～3名
- ・動画編集
団体スタッフ1名 ボランティア1名～2名（学生さん等）
- ・動画制作に要する機材
スマートフォン、カメラ、動画編集ソフト、照明、インターネット接続機器等、
その他機材（マイク、三脚等）
- 事業周知のための活動
チラシ作成と配布（対象：市内の一般企業の人事宛へ配布）
当法人SNS（Instagram等）による事業紹介
- ボランティア募集
松戸向陽高等学校の学生さんらへのボランティア募集説明会開催
当法人HP及びSNSによる学生ボランティアの募集
- 上映会の開催
上映会開催場所としては下記を予定
 - ・市内中学校 中学生 参加者見込み50名以上
 - *GYD（ゲッドユアドリームという活動に参加して上映）
 - ・担当課主催の一般向けの介護に関する研修会にて上映
場所は市民会館や市民劇場など指定場所 参加者見込み：100名以上

2 スケジュール

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月	各関係機関へ協力お願い、ボランティア説明会開催	スタッフ及び担当課 場所は各拠点で実施。
5-8月	動画制作 目標4本～	スタッフ及びボランティア 場所は各拠点で実施
9月	企画振り返り 上映会の企画、開催	スタッフ、ボランティア及び担当課 上映会開催について ・他法人活動のGYDへ参加/市内中学校/中学生 ・担当課主催の介護関係の研修会にて上映/一般/指定の場所
10月	各関係機関へ協力お願い、ボランティア説明会開催	スタッフ及び担当課 場所は各拠点で実施
11-2月	動画制作 目標4本～	スタッフ及びボランティア 場所は各拠点で実施
3月	企画振り返り、予備月	スタッフ、ボランティア及び担当課

3 新型コロナウイルス感染症対策としての取組

- ・撮影前の体調管理 撮影時のマスク、消毒の徹底
- ・感染者増加時期の撮影の自粛（施設系、通所系、訪問系等）

事業の目標	<p>① 年間動画制作数（目標） 年間 8～10 本 種別ごとの介護制度を 5 分程度のショート PV として制作 令和 5 年度においては上記内容の動画だけではなく、介護人材に関する紹介動画や地域による介護に関する活動を紹介する動画等も企画していきたい。</p> <p>② この事業を様々な方法で周知することで、動画再生回数をそれぞれの動画ごとに 500 回再生を目標としたい。</p> <p>③ 介護を学ぶ学生さんらのボランティア参加 年間 5～10 名のボランティアさんに参加してもらう</p> <p>④ 事業の普及啓発 松戸市広報への掲載 1 回/上映会 1 回~/事業チラシ配布 等</p>
協働の必要性 (団体)	<p>このプロジェクトを成功させ松戸市の新しい資源とするためには行政との協働が重要です。担当課として力を入れている事業や市民の方々に知ってもらいたいことなどを私どもの活動で見える化し、松戸市を通じてクローズアップすることが必要です。そのためにも市内の介護を担う担当課（介護保険課）との協働が重要です。</p>
協働の必要性 (市)	<p>担当課（介護保険課）は、行政の堅いイメージの動画ではなく、市民目線の親しみやすい動画を制作できるメリットがあります。活動団体が橋渡し役となり、様々な事業者さんや学生さんらと柔軟に協働した動画がつけれることに必要性を高く感じています。</p>
事業実施の役割分担	<p>① 団体 総合企画 / 動画制作 / 広報活動 / ボランティア連携 *広報活動については主に「チラシ作成、配布」「当法人 SNS 掲載」等</p> <p>② 担当課（介護保険課） 企画進行への協力、支援 / 広報活動 / 動画監修 *広報活動については主に広報まつど介護保険特集号への掲載 及び SNS での周知、イベントでのチラシ配布や動画放映を検討</p>
今後の展望	<p>事業開始から 3 年目となります。これまでの出会いにより、多くの動画を制作でき多くの繋がりができました。</p> <p>この事業は協働事業終了後も継続していくべき活動だと考えています。</p> <p>若者と協同による介護に関する情報発信により、介護の力や介護の魅力が高まることに期待をしています。</p> <p>そして多くの方に今直面している超高齢化社会を理解いただき、年代問わずに助け合いながら年をとっても安心して暮らせる街になることを夢に描いています。</p> <p>私たちの動画が誰かの役に立てることを願って今後も制作を続けていきたいと思えます。</p>

事業の予算計画

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 311,631	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 29,840	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (B)	¥ 29,840	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 268,560	
合計額 (D) = (B + C)		¥ 298,400	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の 交付対象 経費	使用料および賃借料	¥ 70,000	動画編集ソフト（ライセンス料） 10,000円/年 撮影機材カメラ（リース代） 5,000円×12ヶ月
	消耗品費	¥ 61,400	事務用品代 郵便押印用シール等 100円×20個 クリアホルダー等 100円×20個 DM用ポリ封筒100枚A4等 3,000円×3個 アルコール消毒液 等 2,000円×5個 フェイスシールド24枚入り等 9,900円×1個 マスク（不織布）等 1,000円×3個 SDカード等記録用品 等 2,000円×3個 撮影用照明器具（スタンドライト） 9,500円×1個 スケッチボード 等 1,000円×10個
	食糧費	¥ 40,000	ボランティアのお茶代・菓子代 (1回) 2,000円×20回
	印刷製本費	¥ 6,000	動画案内のチラシ 6,000円 (6円×1000部)
	通信運搬費	¥ 86,000	動画編集用インターネット利用料 月6,000円×12ヶ月 チラシ郵便（定形外） 140円×100回
	委託料	¥ 35,000	チラシデザイン料 35,000円×1回
	対象経費の合計 (E)	¥ 298,400	
（その他 対象外） 経費	その他経費の合計額 (F)	¥ 0	
	合計額 (G) = (E + F)	¥ 298,400	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×953円
	会議・打ち合わせ (15回)	71,475 円	5 人 × 1 h × 15 回 × 953 円
	撮影企画準備	57,180 円	3 人 × 2 h × 10 回 × 953 円
	撮影	114,360 円	3 人 × 4 h × 10 回 × 953 円
	編集	57,180 円	1 人 × 6 h × 10 回 × 953 円
	ボランティア説明会	5,718 円	3 人 × 1 h × 2 回 × 953 円
	説明会準備	5,718 円	3 人 × 1 h × 2 回 × 953 円
			円
			円
			円
			円
			円
			円
			円
			円
	合 計 (A)	311,631 円	

No. 3

《 協働事業 》

まつど de SDGs の輪を広げよう
プロジェクト事業

まつど地域活躍塾つながりの会

政策推進課 市政総合研究室

事業計画

事業名	まつど de SDGs の輪を広げようプロジェクト事業
団体名	まつど地域活躍塾つながりの会
事業担当課	政策推進課 市政総合研究室

事業概要

松戸市とまつど地域活躍塾つながりの会との連携・協働による市民社会での SDGs の一層の浸透・定着並びに行動意識を高めるため、「①SDGs 情報発信の拡大」、「②SDGs の地域学習の促進」、「③松戸版 SDGs アクション・プラン企画コンテスト実施」の 3 つの柱から活動を行う。

松戸市の課題

2015 年 9 月に国連が 193 ヲ国の合意の下に定めた「持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)」は、2030 年までに国内外の貧困、平和、教育、医療・福祉、経済、人権、環境等の課題をテーマとした 17 の目標を分野横断的且つ包括的に捉え、多くの課題を同時に解決していくことが求められる。SDGs は世界の共通言語であり、国内外の現代社会の課題を読み解く重要な羅針盤である。行政や企業では、これまで政策や経営と SDGs とを結びつけながら SDGs の目標達成へ向けた取組みを進めてきた。

このような状況の中で、当会としては SDGs の 17 の目標を達成するためには、市民が SDGs に対する理解を深めることが不可欠であると考え、2019 年 4 月から松戸市の市民社会の中で SDGs を普及啓発する活動を進めてきた。当会がこれまで実施してきた地域社会での SDGs 普及啓発の取組みから言える現状の課題を、下記のように捉えた。

- ① 松戸市は、2022 年 5 月 20 日に国の「SDGs 未来都市」と「自治体 SDGs モデル事業」に選ばれた。しかし、松戸の市民社会を見る限りは、市民の SDGs に対する理解が依然として不足しており、SDGs に関する考え方が十分に浸透・定着しているとは言えない。
- ② SDGs の視点を取入れた市民活動や地域社会での取組みは少ない。
- ③ 松戸版 SDGs の取組みやその情報が整理されていない。

2022 年 8 月に、松戸市は「松戸市 SDGs 未来都市計画(第一版)」を策定した。この中で、松戸市はジェンダー平等(目標 5)、平和と公正(目標 16)とパートナーシップ(目標 17)を基本目標としながら、高齢化社会・健康への対応(目標 3)や若い人たちを巻き込んだ地域活性化によるまちづくり(目標 11)に取組む必要性を明記している。また、SDGs モデル事業として、「Z 世代を起爆剤に多様な主体が奏でる常盤平団地エリアのり・ブランディング」の取組みが検討されている。これらの目標を達成するためには、松戸市の経済、社会、環境の視点から同市を俯瞰的に捉えることのできる SDGs の視座を身につけることやその市民学習が重要である。当会としては、松戸市が位置づけている 5、16、17 や 3、11 の各目標を中核に据えた SDGs 学習やその普及啓発を通じて市民社会での SDGs に対する考え方をより深め、市民の SDGs 行動へ促していくための機運を醸成していく活動が大切だと考える。

事業の目的

本事業では、行政とのパートナーシップにより、松戸市民の SDGs に対する理解を一層深める。そして、市が抱える地域づくりの課題を SDGs とのつながりで考え、その解決へ向けた市民の行動意識を高めていくことが大きな目的である。事業の具体的な目的としては、下記の通りである。

- ① 松戸市に関わる SDGs の情報発信を通じて、日常生活と SDGs とのつながりを理解する市民を増やすこと。
- ② SDGs の学習会を通じて、SDGs の視点から松戸のポテンシャル(魅力)や松戸市が抱える課題を自分事として考えてもらうようにすること。
- ③ SDGs のアクション・プラン企画コンテストを通じ、松戸市における社会課題解決のための発想や創造力を高めていくこと。

事業内容

1. 事業内容

松戸市民社会における SDGs への理解を図り、SDGs の視点から松戸市の抱える少子高齢化や地域活性化等の諸課題解決へ向けた意識を高めるため、「①SDGs 情報発信の拡大」、「②SDGs の地域学習の促進」、「③SDGs 行動意識の向上」の 3 つの柱で進める。当会がこれまで呼びかけた SDGs ネット

ワーク参加団体(令和 3・4 年度の松戸市民活動助成で実施)とは事業に関する進捗確認の会合(3 回程)を開催、活動に対する助言も受けながら進める。

① SDGs 情報発信の拡大(2023 年 4 月～12 月)

松戸市では、SDGs の取組みが具体的にどのように行われているのか、特に、市民レベルでの情報を整理・発信しているサイトが少ない。当会が取組んできた SDGs ネットワーク参加団体の協力を得ながら、取組み事例を募集し松戸版 SDGs 活動事例集の作成を進める。そして、市のウェブサイトでの公開により、松戸市の市民社会における SDGs 活動の周知拡大を図る。

② SDGs の地域学習の促進(2023 年 4 月～2024 年 3 月)

市民社会の中で SDGs の浸透・定着をより確かなものとするためには、市民の SDGs の地域学習を促進していくことが重要である。現在開発中の松戸市民向けの SDGs 教材(冊子本)を活用し、市の施設等における SDGs の地域学習会(計 4 回<春・夏・秋・冬>)を実施する。地域学習会では、市も参加して市としての SDGs の取組みを市民へ発信することで、市と当会との両輪での SDGs 普及啓発の相乗効果を期待できる。SDGs の地域学習では、SDGs ネットワーク参加団体を外部講師として依頼する。

③ SDGs 行動意識の向上(2023 年 7 月～2024 年 2 月)

松戸市での地域課題の解決を図る SDGs 行動を促進するべく、「松戸版 SDGs アクション・プラン企画コンテスト(1 回)」を実施し、企画を募集する。2022 年 2 月 10 日に市が主催した「松戸市内の大学生による SDGs フォーラム」に参加した有志の学生と連携しながら、SDGs をテーマとした課題解決の行動へつなげるための能力向上を目指す。なお、SDGs アクション・プラン企画コンテストの上位入賞者には、景品を贈呈する。審査員には SDGs ネットワーク団体と専門家(有識者)を外部審査員として招く。

2. スケジュール

※サポセンとは、「まつど市民活動サポートセンター」のこと。

	①SDGs 情報発信の拡大	②SDGs の地域学習の促進	③SDGs 行動意識の向上	SDGs ネットワーク会合
2023 年 4 月	打合(市)事例の募集チラシ・フォーム作成	打合(市)第 1 回準備:講師検討、チラシ作成・配布、参加者募集		第 1 回開催 場所:サポセン
5 月				
6 月	事例の募集	第 1 回:サポセンで開催 対象:松戸市民 外部講師:SDGs ネットワーク団体		
7 月				
8 月				
9 月	事例とりまとめ・作成・確認	第 2 回:準備、講師検討、チラシ作成・配布、参加者募集	打合(市・関係者)募集要項検討	
10 月				
11 月	松戸市のウェブサイトでの公開	第 3 回:準備、講師検討、チラシ作成・配布、参加者募集	チラシ作成	第 2 回開催 場所:サポセン
12 月				
2023 年 1 月		第 3 回:サポセンで開催 対象:松戸市民 外部講師:SDGs ネットワーク団体	応募者・参加募集開始	
2 月				
2024 年 1 月		第 4 回:準備、講師検討、チラシ作成・配布、参加者募集	打合(市・関係者)、コンテスト開催準備	
2 月				
				コンテスト開催 開催場所:サポセン、審査員 5 名程(市役所、SDGs ネットワーク団体、つながりの会、専門家<有識者>)

	3月	第4回:サホセンで開催 対象:松戸市民 外部講師:SDGs ネット ワーク団体	第3回開催 場所:サホセン
事業の目標	<p>市と当会との連携・協働による市民社会でのSDGsの浸透・定着と行動意識を高めていくための今回の事業目標は、下記3つの活動の柱ごとに示す。</p> <p>① <u>SDGs 情報発信の拡大</u> 松戸の組織・団体のSDGsをテーマとした20活動(事例)以上が公開される。</p> <p>② <u>SDGs の地域学習の促進</u> SDGs の地域学習会(計4回)の実施により計80人(20人程/回)が参加し、身近な暮らしとSDGsとのつながりについて理解を深める(アンケート収集)。</p> <p>③ <u>SDGs 行動意識の向上</u> SDGs アクション・プラン企画コンテスト(1回)で、20件以上の応募がある。</p>		
協働の必要性(団体)	<p>当会では、2019年より松戸の市民社会におけるSDGsの認知度と理解度を図る学習活動を実施してきた。これまでの経験を活かした上でSDGsの浸透・定着を図るもう一步踏込んだ市民への普及啓発を進めたい。当会としては、市と協働して松戸市の「SDGs 未来都市」や「自治体SDGs モデル事業」の後押しをすることで、松戸市の市民社会の中で多様な人材が奏でるSDGs活動の輪を広げ、地域の活性化等につなげていけるよう貢献したい。</p> <p>市と協働することで、市のウェブサイトにおけるSDGs事例集の掲載により、松戸市の市民社会におけるSDGs行動の見える化につながり、SDGsの普及啓発の効果が一層高まることが期待できる。SDGsの地域学習や「松戸版SDGs アクション・プラン企画コンテスト」を市と連携することで、松戸市民へのSDGsの必要性と理解を深め、行動意識を高めることができる。</p>		
協働の必要性(市)	<p>本市が現在抱えている課題である「市民の中で草の根的な普及啓発活動の展開や情報収集」について、以下の点で協働の必要性がある。</p> <p>① 市民・団体とのネットワークを利活用した市民間のSDGsの推進 市内のSDGsを推進している市民・市民団体と「SDGs ネットワーク」を築いている団体との協働により、それを利活用した市内普及啓発にかかる情報収集や、本市のSDGs推進を積極的に行うステークホルダーと市民・団体等とのマッチングにより、市民間でのSDGs推進の機運を醸成できる。</p> <p>② 松戸市独自のSDGs啓発冊子を利活用した市民啓発の拡大 団体が開発を進める松戸市民向けのSDGs教材(冊子本)についてイベントや講演等での紹介・利用等により、松戸市の特性が反映されたSDGsの啓発、発信等が可能となる。</p> <p>③ 相互の相乗効果によるSDGs関連イベントの効果的な開催 市内4大学や包括協定等による連携関係にある民間企業等と団体が企画するSDGs アクション・プラン企画コンテストを連携させて開催することで、単独開催では実現できない相乗効果を図ることが可能となる。また、市が企画する事業についても、当会のネットワークを利用した周知により、より広く市民に周知され、市民や団体との連携も進めることができる。</p>		
事業実施の役割分担	<p>(松戸市市政総合研究室) 各実施内容への協力・助言、広報・情報発信、地域学習会の共同開催、学生との連携・協力構築支援 (まつど地域活躍塾つながりの会) 各実施内容の募集・チラシ作成、講師・応募者・参加者等との連絡・調整、事例集のとりまとめ・作成、地域学習会・コンテストの開催</p>		
今後の展望	<p>今回の協働事業は計3年間で進めることを考えている。2年目以降は、SDGsの活動事例集の募集拡大による情報発信の促進、SDGsを意識した地域での体験型学習会の開催や、アクション・プラン企画コンテストの継続に加え、SDGsの取組みを行いたいと考えている団体・組織等との活動マッチング会の開催や各地域でSDGsを牽引するSDGsリーダー人材育成のための研修会の取組み等を進めたい。協働事業終了後には、市が位置づけているSDGs目標の5、16、17や3、11を意識した市民活動等の取組みへつながっていくことを目指す。そして、当会としては、SDGsのリーダー、ネットワーク団体・関連機関との連携・協働により、市におけるSDGsの取組み状況を観ながら、SDGs実践講座や課題解決型のコンテストの開催等で参加費をとることや、活動に賛同して頂ける企業等とも協力して進めていきたい。</p>		

事業の予算概要

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 293,524	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 19,149	事業費の一部を団体の会計より拠出
	SDGsの地域学習会(参加費)	¥ 40,000	500円×20人×4回
	自己資金の合計額 (B)	¥ 59,149	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 319,041	
	合計額 (D) = (B+C)	¥ 378,190	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳	
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 90,000	SDGsの地域学習会(外部講師): 5,000円×2人×4回 SDGsアクション・プラン企画コンテスト審査員への謝金: 10,000円×5人	
	消耗品費	¥ 10,000	打合せ・学習会用の文房具(ペン、ポストイット等)一式 3,000円 SDGsアクション・プラン企画コンテストの賞状用紙: 2,000円 SDGsアクション・プラン企画コンテストの景品代 SDGs推進ノベルティグッズ一式5,000円	
	印刷製本費	¥ 195,000	松戸版SDGs活動事例集印刷 10円×50枚×150部 松戸版SDGs活動事例集募集用のチラシ: 4円×1,000枚 松戸市民向けSDGs教材の印刷 30円×25枚×100セット SDGsの地域学習(4回開催)のチラシ印刷: 4円×3,000枚 SDGsの地域学習の資料印刷: 10円×20枚×80人 SDGsアクション・プラン企画コンテストのチラシ印刷: 4円×2,000枚 SDGsアクション・プラン企画コンテストの資料印刷: 10円×10枚×50人	
	委託料	¥ 20,000	SDGsアクション・プラン企画コンテストのチラシデザイン: 20,000円	
	食糧費	¥ 1,950	SDGsの地域学習会(外部講師)飲料代: 150円×2人×4回 SDGsアクション・プラン企画コンテスト審査員への飲料代: 150円×5人	
	使用料及び賃借料	¥ 30,140	SDGsネットワーク団体等の関係者との打ち合わせ(まつど市民活動サポートセンター大会議室等) 660円/時間×2時間×3回 SDGsの地域学習(まつど市民活動サポートセンター大会議室等) 660円/時間×7時間×4回 SDGsアクション・プラン企画コンテスト(まつど市民活動サポートセンター多目的ホール) 1,100円/時間×7時間	
	通信運搬費	¥ 7,400	関係者への資料・チラシ等の郵送料: 370円(レターパック)×20回	
		対象経費の合計 (E)	¥ 354,490	
	（その他）経費	交通費	¥ 5,000	つながりの会会員(打合せ等): 500円×10回
		通信運搬費	¥ 3,700	つながりの会会員(資料・チラシ等): 370円(レターパック)×10回
チラシデザイン		¥ 15,000	松戸版SDGs活動事例応募チラシデザイン: 3,000円 SDGs地域学習チラシデザイン: 3,000円×4回	
その他経費の合計額 (F)		¥ 23,700		
	合計額 (G) = (E+F)	¥ 378,190		

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間回数×953円
	①SDGs情報発信の拡大 打合せ	22,872円	4人×2h×3回×953円
	SDGs活動事例集の整理・編集・作成	38,120円	2人×2h×10回×953円
	②SDGsの地域学習の促進 打合せ	15,248円	4人×1h×4回×953円
	SDGsの地域学習会の準備	15,248円	4人×1h×4回×953円
	SDGsの地域学習会の実施	106,736円	4人×7h×4回×953円
	SDGsの地域学習会の事後処理	15,248円	2人×2h×4回×953円
	③SDGs行動意識の向上 打合せ	22,872円	4人×2h×3回×953円
	松戸版SDGsアクション・プラン企画コ ンテストの準備	22,872円	4人×3h×2回×953円
	松戸版SDGsアクション・プラン企画コ ンテストの実施	26,684円	4人×7h×1回×953円
	松戸版SDGsアクション・プラン企画コ ンテストの事後処理	7,624円	2人×2h×2回×953円
			人×h×回×円
			人×h×回×円
			人×h×回×円
	合 計 (A)	293,524円	

No. 4

《 協働事業 》

料理教室を通じた父親の意識改革事業

MAISON IZARRA Oyatsu labo * T naturel

メゾン イザラ おやつラボ * テ ナチュレル

男女共同参画課

事業計画

	事業名	料理教室を通じた父親の意識改革事業
	団体名	MAISON IZARRA Oyatsu labo * T naturel メゾン イザラおやつラボ*テ ナチュレル
	事業担当課	男女共同参画課
事業概要		
父親の家事・育児への参加促進や、男女は対等なパートナーであることの理解促進の為に、父親と子供が共同で料理をつくるイベントとワークショップを実施します。		
松戸市の課題	<p>松戸市では、職場、家庭、学校、地域などあらゆる分野で、女性も男性も個性と能力を発揮し、対等なパートナーとして社会に参画し、自立的な生活を営むことを「男女共同参画」として捉えて施策を進めています。</p> <p>しかし、周囲の家族へのヒアリングや資料(※参照)によると、父親が子どもと一緒に過ごす時間は、その家族が希望する理想の状態とはほど遠く、男性の半数以上が1日1時間未満で、少ないというのが現状です。</p> <p>共働き世帯が増えている現状の中、男女が対等なパートナーとして互いに認識し、日々の生活の中で家事・育児を主体的に分担していくことが、今後ますます必要であると考えます。</p> <p>※資料「男女共同参画社会に関する市民意識調査」(令和3年度 松戸市)P. 25 3-(1)問4 仕事・家庭生活・地域や個人生活の優先度【現状】【希望】</p>	
事業の目的	<p>松戸市男女共同参画プランでも定められている</p> <p>「男性が家事・育児に関わることへの抵抗感を減らす」、</p> <p>「さまざまな分野で女性と男性一人ひとりの能力ををいかす」ために、弊団体の強みである「料理講習」を活用して下記の目的を達成します。</p> <p>【事業の目的】</p> <p>① 父親と子どもと一緒に料理をする機会の提供を行うことで、男性が家事・育児に関わるきっかけづくりを行います。</p> <p>② 料理教室の後にワークショップの時間をとり、父親の家庭参画に対する意識改革を図ります。</p>	
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>① 父親と子ども向けの料理教室を実施します。(年4回)</p> <p>② 3時間(2.5時間程度の調理イベント+ワークショップ30分)のプログラムを組み立てます。</p> <p>③ レシピの作成や試作、材料の選定・調達・小分け計量を行います。</p> <p>④ 軽食に応用できるメニューを紹介し、応用の仕方などを伝えます。</p> <p>⑤ 広報用のチラシ・ポスターを作成し、男性の多い職場にチラシを送付して周知します。</p> <p>⑥ イベント当日は、普段はパティシエの仕事を行なっている専門スタッフが調理レクチャーを行い、団体のスタッフがサポート役に回ります。</p> <p>⑦ イベント終了後、振り返りを行い、次に向けた改善点を洗い出します。</p>	

2 スケジュール

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
6月	父と子のお菓子づくり 体験教室 季節の果実のチーズケーキ（卵不使用）	市民会館 料理教室、 父親と子ども ワークショップ：外部講師
8月	父と子のお菓子づくり 体験教室 クレープ	市民会館 料理教室、 父親と子ども ワークショップ：外部講師
10月	父と子のお菓子づくり 体験教室 ハロウィンモンブラン（卵不使用）	市民会館 料理教室、 父親と子ども ワークショップ：外部講師
12月	父と子のお菓子づくり 体験教室 クリスマスケーキ	市民会館 料理教室、 父親と子ども ワークショップ：外部講師

*感染症の影響がまだ懸念されるため、ソーシャルディスタンスが確保可能な市民会館での開催をします。

【事業内容の目的ポイント】

- ・特別な道具や材料を使わず、家庭でもおやつや軽食にも利用しやすいメニューを、父親と子どもでお互いに学びながら共同作業を楽しむことができ、男性の家事・育児への心象的なハードルを下げます。

- ・食物アレルギーに配慮し、卵不使用メニューでの開催も行います。

- ・調理終了後にはワークショップの時間を設け、父親と子どもの意見交換を通じて、男女共同参画への父親の理解を深めます。

○ワークショップについて

- ・1年目は、統計資料等をもとに父親が家事育児に参画する必要性を説明するなど、参加者の意識を高めることを図った。また講師から参加者へ質問をするなどの対話形式でのコミュニケーションを行いました。

- ・2年目は、参加者が興味を持ちやすい実生活での話題を多く取り上げ、参加者が別の参加者の話を聞くことで、自身の家庭参画の現状を振り返り、また、自分もやってみようという前向きな意識になるようコミュニケーションを多く取り入れたワークショップを実施しています。

- ・3年目には、これまでの実施してきた経験から、男性は日頃、育児や家事などについて誰かと話す機会が少ないようですので、コミュニケーションを図ることが特に参加者の意識改革に繋がると感じています。

上記のことから、参加者同士の交流を図れるような、コミュニケーションを中心としたワークショップを実施することで、参加者の意識改革を図り、まずは家庭での実践に繋がることを目指します。また、パパサークルの活動等を紹介することで父親が地域で活躍できる場として、地域活動にも興味を持ってもらえるようにします。

事業の目標	<p>① 料理イベントを年 4 回程度開催し、感染拡大状況に応じ、各回 10～15 組 20～35 名を集客します【参加人数（最大）60 組 140 名】</p> <p>② 父親の男女共同参画への理解と、家事・育児に関する意識を高めます。（参加者へアンケート調査を実施し、目標達成度を測定します）</p> <p>③ 父親と子どもに、ものづくりの楽しさ、食の大切さを伝え、参加者は、家庭でもおやつや軽食が作れるようになります。</p> <p>④ 男性の家事・育児への心象的なハードルを下げます。</p>
協働の必要性 （団体）	<p>・市と協働する事により、信頼と安心感をもってもらえ、イベントに参加しやすくなります。</p> <p>・団体の自己資金が少ないため実施できなかった、父親向けの事業を行うことができます。</p> <p>・市の広報力により、より必要な親子へ向けての広報が可能になります。結果として、効果的なプログラムを、より必要な親子に向けて提供することが可能になります。</p>
協働の必要性 （市）	<p>昨年、本課で実施した市民意識調査において、家庭内労働の分担を質問したところ、男性は現状、「主にパートナーが分担し、自分は手伝う程度」と回答した人が 5 割以上でしたが、希望としては、「自分がもう少し分担した方がよいと思う」が 4 割程度いました。また、「男性が家庭参画するために必要なこと」として、女性で一番多かった回答が「男性の家事参加の抵抗感をなくすこと」で 5 割を超えていたことから、男性の意識改革と家事参加のきっかけづくりが重要であると感じています。</p> <p>男性の家庭参画のきっかけづくりとして料理教室を開催することは、非常に効果的と考えていますが、料理のノウハウがないため、市単独で料理教室を主催することは困難だったことから団体との協働は、お互いに良い機会となっています。</p> <p>さらに、料理の専門的な知識と経験を有する団体と協働して事業を実施することで、市民の方からは一流の料理人に料理を教えてもらえるまたとない機会と魅力的に映り、市単独で事業を実施するより多くの方に興味を持っていただけることから、引き続き協働して事業を実施したいと考えています。</p>
事業実施の役割 分担	<p>① 団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理イベント（2.5 時間）＋ワークショップ（30 分）のプログラムを組み立てます。 ・レシピの作成や試作、材料の選定・調達・小分け計量、広報用チラシ・ポスター作成 ・イベント当日は、団体スタッフが調理レクチャーとサポートを行います。 <p>② 男女共同参画課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ講師の選定・依頼、内容の調整。 ・広報まつど、市ホームページでの周知等の広報活動。
今後の展望	<p>協働事業終了後も定期的に父親と子ども対象のお菓子作り体験教室を開催して学びと体験を提供し、参加費として収入に繋げ、男性の家事・育児に関する意識を高めていきます。</p>

事業の予算計画

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥388,824	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	MAISON IZARRA Oyatsu labo * T naturel 団体拠出金	¥ 83,692	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (B)	¥ 83,692	
市	協働事業負担金 (C)	¥458,388	
合計額 (D) = (B + C)		¥542,080	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の 交付対象経費	報償費	¥120,000	外部講師謝礼（ワーク ショップ） 15,000円×4回×2人
	消耗品費	¥268,200	食材 1,630円×35人×4回 試作材料5,000円×2回分×4回
	消耗品費	¥ 49,760	資材 クッキングシート800円×10、ラップフィルム550円×16、絞り袋72枚入3,000円×2、ムースフィルム100枚2,200円、デザートカップ蓋付75円×100、台所用洗剤100円×12、スポンジ3個入220円×8、食品用アルコールスプレー1,200円×2、ハンドソープ300円×8、キッチンペーパー150円×4、ビニール手袋100枚入2,000円×2、ペーパータオル200組220円×4、保冷剤50個入800円×2、食品用保存袋50枚入150円×4、ケーキトレイ50枚入1,050円、ケーキ箱25個入770円
	消耗品費	¥ 30,360	チラシA4/1000部×4回 チラシ用紙(500枚)658円×8セット、インクカートリッジ5色パック6,045円×4セット、ラベル229円×4個
	使用料及び賃借料	¥ 33,600	会場使用料（試作・料理 教室） 2,000円×12回（レシピ作成試作4回、作業工程確認・注意点共有試作4回、料理教室4回）2,400円×4回 設備及び備品使用料（ワイヤレスマイク）
	通信運搬費	¥ 7,400	チラシ送付用 レターパック370円×20枚（5箇所×4回）
	対象経費の合計 (E)	¥509,320	
	（その他 対象） 経費	食糧費	¥ 10,000
交通費		¥ 20,000	会員の交通費 500円×4人×4回 搬入搬出タクシー代 1,500円×2×4回
通信費		¥ 2,760	ゆうパック 690円×4回
その他経費の合計額 (F)		¥ 32,760	
合計額 (G) = (E + F)		¥542,080	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間回数×953円
	料理教室を通じた父親の意識改革講座打合せ（8回）	76,240 円	5 人 × 2 h × 8 回 × 953 円
	料理教室を通じた父親の意識改革講座試作会（8回）	60,992 円	2 人 × 4 h × 8 回 × 953 円
	料理教室を通じた父親の意識改革講座準備（8回）	114,360 円	5 人 × 3 h × 8 回 × 953 円
	料理教室を通じた父親の意識改革講座（4回）	57,180 円	5 人 × 3 h × 4 回 × 953 円
	チラシ制作	19,060 円	1 人 × 5 h × 4 回 × 953 円
	報告書作成	22,872 円	2 人 × 3 h × 4 回 × 953 円
	料理教室を通じた父親の意識改革講座振り返り、反省会（4回）	19,060 円	5 人 × 1 h × 4 回 × 953 円
	料理教室を通じた父親の意識改革講座片付け、清掃（4回）	19,060 円	5 人 × 1 h × 4 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
合 計 (A)	388,824 円		

No. 5

《 協働事業 》

日本語を母国語としない
子どものための学習支援事業

認定 NPO 法人
外国人の子どものための勉強会

国際推進課

事業計画

	事業名	日本語を母国語としない子どものための学習支援事業															
	団体名	認定 NPO 法人 外国人の子どものための勉強会															
	事業担当課	国際推進課															
事業概要																	
日本語を母国語としない子どもの学習面及び生活面を支援するとともに、地域の人々に日本語を母国語としない子どもに対する理解を促す。																	
松戸市の課題	<p>松戸市では外国籍市民数が年々増加しており、それに伴い日本語を母国語としない子どもも増加している。こうした子どもたちの中には、言葉の障壁や、文化の違いにより、周囲と円滑なコミュニケーションが行えない、授業を理解できない、就学や就労の情報が得にくいといった問題を抱える者がいる。さらに、地域から子どもが孤立したり、子どもの学習機会や将来の選択肢の喪失につながるものが危惧される。</p>																
事業の目的	<p>① 日本語を母国語としない子どもへ、日常生活や学習に必要な日本語指導及び学習支援を行い、すべての子どもが均しく学び、就学や就職など将来における選択肢を幅広く持ち、真に自立することを促す。</p> <p>② 子どもが地域から孤立しないための時間と場所を提供し、安心して暮らすことのできる環境づくりを推進する。</p>																
事業内容	<p>【事業の目的①を達成するための事業】</p> <p>下記3点を通じて、日本語を母国語としない子どもを対象にした学習及び生活支援を強化する。</p> <p>1-1. <u>定例勉強会の受入れ生徒数を増やす</u></p> <p>現在、毎週3教室5クラスの定例勉強会を実施している。</p> <table border="0"> <tr> <td>文化ホール教室</td> <td>土曜</td> <td>中学生対象</td> </tr> <tr> <td>常盤平教室</td> <td>火曜</td> <td>小学生対象</td> </tr> <tr> <td></td> <td>木曜</td> <td>中学生対象</td> </tr> <tr> <td></td> <td>土曜</td> <td>小学生対象</td> </tr> <tr> <td>新松戸教室</td> <td>水曜</td> <td>小中高生対象</td> </tr> </table> <p>日本で生活することに不安を抱く子どもやその保護者等、学習及び生活における支援が必要な層に、当勉強会の存在を十分に周知できていないと考えている。本市転入手続き時に勉強会のチラシの配布や市及び国</p>		文化ホール教室	土曜	中学生対象	常盤平教室	火曜	小学生対象		木曜	中学生対象		土曜	小学生対象	新松戸教室	水曜	小中高生対象
文化ホール教室	土曜	中学生対象															
常盤平教室	火曜	小学生対象															
	木曜	中学生対象															
	土曜	小学生対象															
新松戸教室	水曜	小中高生対象															

際交流協会の広報媒体を通じて、周知活動に力を入れ、当勉強会へ通うことを通じて就学や就職への選択肢を広げてもらう。

1-2. 初級クラスの導入

学習サポートの前に、日常生活のサポートを充実させるため、上記3教室5クラスとは別に、日本語が全くわからない生徒のために、日本語を習得することに特化したクラスの開設を目指す。

1-3. オンライン授業の導入

遠方や遅い時間でも参加できるように、オンライン授業を導入する。まずは、オンライン授業を受講できる機器及びWi-Fi環境がある生徒を対象に開始し、ニーズを分析し、必要に応じて受講環境を提供する。

【事業の目的①と②を達成するための事業】

2-1. 集中勉強会&交流会の担い手を増やす

定例勉強会とは異なる夏休み教室や社会科見学等の企画から当日の運営までを主体的に担うボランティアを募集する。対象は、大学生を中心とし、高校生や社会人も積極的に受け入れる。団体のスタッフだけでなく、地域の身近な大人が担い手になることで、当勉強会の生徒が様々な大人像を見ることができ、将来の選択肢を考えるきっかけを創出する。併せて、ボランティアが定例勉強会のスタッフとして定着することを目指す。

2-2. 地域の理解を得る

ボランティアとして活動することが難しい地域の人々を対象に、当勉強会の活動を見学する機会オープンデイを設ける。参加型のイベントや模擬授業などを実施し、日本語を母国語としない子どもと接する機会を創出し、先入観や偏見を払拭し、日本語を母国語としない子どもへの理解を促す。

2-3. 地域との協働

日本語を母国語としない子どもの多い常盤平団地自治会と連携し、スタッフが常盤平団地自治会館へ赴き、出張授業を実施する。出張授業を通じて、日本語や学習支援の潜在的なニーズの掘り起こすとともに、当勉強会の活動を広く周知する。

【スケジュール】

実施月	取り組み	体制、対象、場所など
通年	1-1. 打合せ2回、チラシ作成・配布、教材準備、授	構成員、外国にルーツを持つ子ども達、各教室

		業 30 回	
	5 月～	1-2. 打合せ 2 回、教材準備、授業 20 回	構成員、外国にルーツを持つ子ども達、常盤平教室
	5 月～	1-3. 講師オンライン環境準備、授業 12 回	構成員、外国にルーツを持つ子ども達、文化ホール教室
	6～8 月	2-1. ボランティア募集 (20 名)、打合せ 2 回、チラシ作成・配布	構成員、外部スタッフ 20 名、外国にルーツを持つ子ども達、文化ホール教室
	9～2 月	2-3. 打合せ 2 回、実施 1 回	構成員、地域住民、常盤平団地自治会館
	9～2 月	2-2. 打合せ 2 回、チラシ作成・配布	構成員、地域住民、文化ホール教室
事業の目標	<p>① 生徒数増 (令和 4 年度末人数+10 名)</p> <p>② オンライン授業を 12 回実施。</p> <p>③ スタッフ以外の者と企画運営する集中勉強会&交流会を 1 つ以上実施。</p>		
協働の必要性 (団体)	<p>松戸市では、将来を支える子どもたちのために様々な施策を展開している。その一環として日本語を母国語としない子どもが地域で孤立することなく暮らしていけるよう、日本語指導及び学習支援を実施することが重要と考えている。当勉強会が、行政と連携することで、行政の抱える課題の共有ができるほか、事業の周知及び会場の確保を一層強化することができ、かつ事業活動の範囲を広げることができると考えている。</p>		
協働の必要性 (市)	<p>松戸市では、将来を支える子どもたちのために様々な施策を展開している。その一環として日本語を母国語としない子どもが地域で孤立することなく暮らしていけるよう、日本語指導及び学習支援を実施することが重要と考えている。行政が、当勉強会と連携することで、言語の障壁や、文化の違いのために、日常生活を送ることにストレスや不安を感じる子どもたちに居場所を提供することができる。また、地域と子どもたちのかかわりを構築し、地域の人々に日本語を母国語としない子どもへの理解や協力を促すことができる。</p>		
事業実施の役割 分担	<p>団 体：事業の実施 (定例勉強会の運営、地域との協働)</p> <p>担当課：会場の提供、事業実施に係る広報活動</p>		
今後の展望	<p>1、2 年目に試験的に実施した事業について評価し、効果的であった事業を継続する。こうした継続する事業が、協働事業終了後も円滑に行える実施体制 (講師確保、会場確保、広報活動) を構築する。</p>		

事業の予算計画

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 2,889,496	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 41,720	事業費の一部を団体の会計より拠出
	生徒参加費	¥ 270,000	3,000円×3学期×30人
	自己資金の合計額 (B)	¥ 311,720	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 500,000	
合計額 (D) = (B+C)		¥ 811,720	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の 交付対象 経費	報償費	¥ 100,000	集中勉強会&交流会 外部スタッフ謝金 1,000円×20人×5回
	消耗品費	¥ 50,000	インク・コピー用紙・文房具・手指消毒液、事務用品、マスク、フェイスシールド、パーテーション、非接触型体温計等
	印刷製本費	¥ 170,000	定例勉強会 生徒募集チラシ印刷 (日本語・中国語・英語・ベトナム語) 20,000円 (20円×250部×4言語) 短期集中勉強会&交流会 チラシ印刷 10,000円 (20円×500部) オープンデイ チラシ印刷 40,000円 (20円×2,000部) 各教室教材 100,000円 (2,000円×50冊)
	使用料及び賃借料	¥ 335,720	定例教室使用 常盤平教室：19,000円×12回、新松戸教室：700円×38回 オンライン教室開催用 ポケットWi-Fi 5,000円×12ヵ月 ZOOM ID 1,760円×12ヵ月
	対象経費の合計 (E)	¥ 655,720	
(その他 対象) 経費	食糧費	¥ 30,000	行事当日担当会員の昼食代 600円×10人×5回
	印刷製本費	¥ 30,000	会報 10,000円×3回
	通信運搬費	¥ 66,000	活動報告会報郵送代 22,000×3回
	その他	¥ 30,000	オンライン会議用PC
	その他経費の合計額 (F)	¥ 156,000	
合計額 (G) = (E+F)		¥ 811,720	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間回数×953円
	定例勉強会の受入れ生徒数を増やすための周知活動（チラシの作成・配布）	11,436 円	2 人 × 2 h × 3 回 × 953 円
	定例勉強会における授業の実施	2,630,280 円	46 人 × 2 h × 30 回 × 953 円
	初級クラスの導入のための打合と授業の準備	15,248 円	4 人 × 2 h × 2 回 × 953 円
	初級クラスの導入のための打合と授業の実施	152,480 円	4 人 × 2 h × 20 回 × 953 円
	オンライン授業の実施	22,872 円	1 人 × 2 h × 12 回 × 953 円
	集中勉強会&交流会の準備	15,248 円	4 人 × 2 h × 2 回 × 953 円
	集中勉強会&交流会の実施	7,624 円	4 人 × 2 h × 1 回 × 953 円
	オープンディの準備	7,624 円	2 人 × 2 h × 2 回 × 953 円
	オープンディの実施	3,812 円	2 人 × 2 h × 1 回 × 953 円
	地域との協働（常盤平団地自治会）の準備	11,436 円	3 人 × 2 h × 2 回 × 953 円
	地域との協働（常盤平団地自治会）の実施	11,436 円	3 人 × 4 h × 1 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
		人 × h × 回 × 953 円	
		人 × h × 回 × 953 円	
		人 × h × 回 × 953 円	
		人 × h × 回 × 953 円	
		人 × h × 回 × 953 円	
		人 × h × 回 × 953 円	
合 計 (A)	2,889,496 円		

No. 6

《 協働事業 》

町会・自治会の活動をPRして
親しみをもってもらおう事業

できる街プロジェクト

市民自治課

事業計画

事業名	町会・自治会の活動を PR して親しみをもってもらおう事業
団体名	できる街プロジェクト
事業担当課	市民自治課

事業概要	
<p>○松戸市町会・自治会の活動内容を調査・ヒアリングをし、PR する漫画やアニメを制作</p> <p>○制作した漫画・アニメを、市の HP や団体の HP・SNS で発信・地上波 TV 放送</p> <p>○制作・発信を行い、町会・自治会の活動に親しみを持ってもらう</p>	
松戸市の課題	<p>松戸市ではベッドタウンという土地柄や東松戸地区の開発などで、人口は増加傾向にあるものの、町会・自治会としては単身世帯や外国籍の方の増加、アパートの増加などで町会加入のアプローチがしにくく、結果として町会加入率が低下しています。これにより、町会活動の維持や人員不足に悩む町会・自治会も多くなっています。</p> <p>加入率の低下は、地域のつながりが薄れ、災害時などの困ったときに周囲に頼れる人がいない、情報が伝わらない等の 2 次災害のおそれにもつながります。これを防ぐため、市では加入促進チラシを作成し、配布する等の取り組みが行われていますが、抜本的な解決には至っていません。</p> <p>加入率低下については、町会・自治会が何をしているのかわからないため、加入できないでいることが一つの要因として考えられます。町会・自治会の活動を周知し、親しみを持ってもらうことで加入率の低下を防ぎ、人員不足の解消につながると考えます。</p>
事業の目的	<p>現状、町会・自治会自体について「分からない」ことを理由に加入できないでいる課題があるため、本事業によって「町会・自治会活動の認知度」の向上に取り組み、結果として「町会・自治会加入率の維持」に繋がることを目的に活動します。</p>
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>A. 松戸市町会・自治会 PR 内容の調査・ヒアリング →松戸市町会・自治会の情報収集を行います。町会活動についてヒアリングを行い、漫画・動画の内容を検討します。</p> <p>B. 松戸市町会・自治会 PR 漫画の制作・公開 →松戸市町会・自治会連合会公式キャラクター『まつかめ』と松戸市町会・自治会 PR キャラクター『じちまる』が登場する町会・自治会の活動をストーリー仕立てで紹介する漫画を 4 話制作します。 →制作した漫画は市や団体の HP・SNS で発信します。</p> <p>【対象】漫画仕上げ代</p>

C. 松戸市町会・自治会 PR アニメの制作・公開

→B で制作した漫画をベースにアニメを 4 話制作します。

→制作したアニメは、市の HP や団体の HP・SNS で発信します。

【対象】声優出演費、スタジオ使用料、音響機材レンタル費、BGM 制作費

D. じちまる&まつかめが登場するアニメの制作・地上波 TV 放送

→松戸市町会・自治会連合会公式キャラクター『まつかめ』と松戸市町会・自治会 PR キャラクター『じちまる』が登場するアニメを 1 話制作し、TV アニメで放送することで話題性を出し、より多くの方に認知してもらいます。

(C の内容とは別で制作します)

【対象】声優出演費、スタジオ使用料、音響機材レンタル費、BGM 制作費、TV 放送用素材制作費、TV 放送料、完パケ代、TV 用イラスト仕上げ代

E. プレスリリース・周知

B・C・D の制作後、今後転入される可能性がある方及び市内在住の未加入者に対して町会・自治会活動を知ってもらうことを目的にプレスリリースなど周知を行います。

【対象】インク(カラー6色セット)、ポスター印刷用紙、プリンタ用紙、ポスター&フライヤー印刷費

2 スケジュール

実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4～6	A. 内容調査・ヒアリング	A. 構成員、市民自治課 周知対象：町会
7～11	B. PR 漫画の制作 C. PR アニメの制作 D. PRTV アニメの制作	B. 構成員、市民自治課、町会 C. 構成員、市民自治課、町会、声優(村田綾野、萱沼千穂他 2 名) D. 構成員、市民自治課、町会、声優(村田綾野、萱沼千穂他 2 名)
12～3	B. PR 漫画の公開 C. PR アニメの公開 D. PR アニメが地上波 TV 放送 E. プレスリリース	B. 構成員、市民自治課 C. 構成員、市民自治課 D. 構成員、市民自治課 E. 構成員、市民自治課 周知対象：町会、市民

事業の目標	①漫画制作【制作漫画数：4 話、SNS での視聴回数：10,000 回】 ②動画制作【制作動画数：5 本、SNS での視聴回数：10,000 回】 ③町会・自治会加入率【2020 年度と同等の加入率 67.85%】
協働の必要性 (団体)	・団体は協働することで、町会・自治会の正確な情報を入手し、発信できます。 ・市の公認であることで、情報元の信用度が高まり、市民の方も安心して情報を受け取ることができます。

<p>協働の必要性 (市)</p>	<p>松戸市で地域活動への参加に消極的な層は、主に単身世帯やアパート居住者で比較的若年層が多く、こういった年齢層に町会・自治会活動に参加していただくことで、地域活性化につながるとともに、町会・自治会で抱えている役員の高齢化や人員不足といった課題への解決にもつながります。</p> <p>そのため、市では町会加入を促進すべく、若い世代が触れやすい Twitter や市 HP 等を活用し町会・自治会活動周知に向けて取り組んできましたが、町会・自治会そのものへの興味を持ってもらう誘因に乏しく、町会加入率向上には至っておりません。</p> <p>若い世代が興味を持ち、気軽に見てもらいやすい媒体としては、とりわけ YouTube 等のインターネット動画や漫画が挙げられますが、市ではそういったツールを活用する手段に乏しく、作成のノウハウのある団体と協働する必要性が高いと言えます。</p> <p>また、SNS 等での発信力を持つ団体と協働することで、より広く効果的に町会・自治会活動の周知を行えるため、町会加入率向上が期待できます。</p>
<p>事業実施の役割 分担</p>	<p>① 団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脚本、漫画、アニメの作成 ・団体の YouTube に投稿 ・SNS による PR ・TV 放送用アニメの制作 ・TV 放送各種手続き <p>② 担当課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果の見込める内容、PR したい内容のピックアップ ・市で行った町会・自治会活動についての調査をもとにヒアリングする町会・自治会を選定 ・松戸市内の町会との連携 ・制作物の内容の確認、修正 ・プレスリリース ・松戸市の YouTube (まっちゃんねる) に投稿 ・市 HP・SNS による PR
<p>今後の展望</p>	<p>【協働事業 2 年目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漫画とアニメの制作、TV アニメ放送 ・町会・自治会の具体的な活動を描き、見た方に町会・自治会の活動に興味を持ってもらう <p>【協働事業 3 年目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漫画とアニメの制作 ・漫画冊子 (第 2 版) の制作 ・新聞への漫画掲載 ・アニメでは松戸に縁のある著名人に出演いただき、話題性を出し、より多くの方に認知してもらう <p>【協働事業終了後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働事業で得られた成果物を利用して市内の小学校へ漫画冊子を配布し、まずは子どもたちに町会活動に興味をもってもらい、子どもから大人へ町会の魅力を伝えることで町会の加入率維持に繋げる。

事業の予算計画

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 840,546	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 145,530	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (B)	¥ 145,530	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 500,000	
合計額 (D) = (B + C)		¥ 645,530	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 154,000	声優出演費 16,500円×2名×2回=66,000円 声優出演費 22,000円×4名=88,000円
	消耗品費	¥ 12,130	インク(カラー6色セット) 5,750円×1箱=5,750円 ポスター印刷用紙 2,750円×2箱(100枚入り)=5,500円 プリンタ用紙 880円(500枚入り)=880円
	印刷製本費	¥ 10,000	ポスター&フライヤー印刷費 50円×200枚=10,000円
	使用料及び賃借料	¥ 220,000	スタジオ使用料 33,000円×2回=66,000円 音響機材レンタル費 33,000円×2回=66,000円 TV放送料 88,000円×1話=88,000円
	委託料	¥ 245,000	BGM制作費 10,000円×5話=50,000円 漫画仕上げ代 24,000円×4話=96,000円 TV放送用素材制作費 55,000円×1話=55,000円 完パケ代 11,000円×1本=11,000円 TV用イラスト仕上げ代 33,000円×1本=33,000円
	対象経費の合計 (E)	¥ 641,130	
(その他経費)	交通費	¥ 4,400	メンバー交通費 440円×2人×5回
	その他経費の合計額 (F)	¥ 4,400	
合計額 (G) = (E + F)		¥ 645,530	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×953円
	動画内容打合せ（5回）	47,650 円	5 人 × 2 h × 5 回 × 953 円
	イラスト打合せ	11,436 円	2 人 × 2 h × 3 回 × 953 円
	TV放送打合せ	19,060 円	2 人 × 2 h × 5 回 × 953 円
	脚本・漫画ラフ制作（通常4話、TV1話）	285,900 円	1 人 × 60 h × 5 回 × 953 円
	動画制作（アニメ4話）	381,200 円	1 人 × 100 h × 4 回 × 953 円
	動画制作（TVアニメ1話）	95,300 円	1 人 × 100 h × 1 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
	合 計（A）	840,546 円	

No. 7

《 スタート助成 》

高塚新田付近の多世代交流型居場所事業

梨っこ食堂

事業計画書

事業名	高塚新田付近の多世代交流型居場所事業
団体名	梨っこ食堂

事業概要	
高塚新田付近の子どもを中心に地域住民のコミュニケーションの場を創り、安定的に場の開催を実施する。梨っこ食堂を通して、子ども達に食事や学習の場として、居場所を提供し、子ども達の豊かで充実した生活と社会創りに寄与する。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	高塚新田は、子ども・高齢者の居場所が不足している現状がある。また、コロナ禍の影響が色濃く残り、家庭環境は大きく変化し、貧困や孤立が社会問題となっている現状は、高塚新田地域でも顕著である。子ども食堂を通して、子どもは家庭と違う大人と繋がり、地域の中で顔の見える関係の中、選択肢を増やし心身の健全な成長を図り、未来の貧困サイクルを断つ必要がある。
事業の目的	誰でも参加できる居場所・人との繋がりをつくる梨っこ食堂の開催。 子育てが孤育てにならないように、親も子も息抜きの場とする。 困りごとの相談の出来る専門家との語りの場の提供 いつでもお腹いっぱい食べられる環境づくり お弁当の配布やフードパントリー・衛生用品の配布を実施 お弁当・食材の個別支援（必要であれば、お宅で予約調理も可能） 子ども学習支援
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>① 協力企業などの支援を受けながら梨っこ食堂を開催（2回～3回/月予定） 会場：高塚新田集会所（又は東部市民センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが家でも出来る調理実習1回/月実施。 ・梨っこ食堂後の安心できる居場所 ・月1回イベントを実施 <p>② 梨っこ食堂開催時 お弁当・フードパントリー・6回/年実施</p> <p>③ 緊急要請の場合、要相談で食材個別配布支援実施</p> <p>④ 外出できない世帯を対象として、必要に応じて自宅へ出向き調理</p> <p>⑤ 子育てが孤育てにならないように、困りごとなどの相談ができるよう、予約制で専門家相談会実施</p> <p>⑥ 梨っこ食堂開催時 通年で都度学習支援・宿題支援を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇の場合は、1回/週（夏休みの自由研究・宿題、冬休みの宿題） <p>⑦ 潜在的に支援が必要な人に、支援情報を届けるため、チラシ・パンフレットを作成し、地域の方の協力を得ながら配布する。</p>

	<p>2 スケジュール（番号①～⑦は事業内容参照）</p> <table border="1" data-bbox="448 277 1401 539"> <thead> <tr> <th data-bbox="448 277 592 315">実施月</th> <th data-bbox="592 277 927 315">具体的な取り組み</th> <th data-bbox="927 277 1401 315">実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="448 315 592 539">4～3</td> <td data-bbox="592 315 927 539"> ①～⑦ 梨っこ食堂・居場所 （月1回調理実習、月1回イベント） チラシの作成、配布 </td> <td data-bbox="927 315 1401 539"> 構成員、地域住民、高塚新田集会場・東部市民センター </td> </tr> </tbody> </table> <p>※③. ④. ⑤については随時実施</p>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4～3	①～⑦ 梨っこ食堂・居場所 （月1回調理実習、月1回イベント） チラシの作成、配布	構成員、地域住民、高塚新田集会場・東部市民センター
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など					
4～3	①～⑦ 梨っこ食堂・居場所 （月1回調理実習、月1回イベント） チラシの作成、配布	構成員、地域住民、高塚新田集会場・東部市民センター					
<p>既存の事業からステップアップする部分 （ステップアップ助成のみ）</p>							
<p>事業の目標</p>	<p>（以下番号は対応する事業内容）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 誰でも参加できる居場所・人との繋がりづくりに梨っこ食堂の開催。 ・月2回～3回開催し、参加人数：1回あたり子ども30人 ② お弁当の配布やフードパントリー・衛生用品の配布を6回/年 ③ 緊急要請があったときは、食材の個別配布支援を行う。 ④ 外出できない世帯を対象として、必要に応じて自宅へ出向き調理 ⑤ 子育てが孤育てにならないように、親も子ども息抜き場とする。 ・地域の子育て世代 新規親子参加 1組～2組/月 ・困りごとの相談の出来る専門家との語りの場の提供 ⑥ 通年 都度学習支援開催・長期休暇時毎週1回学習支援実施 ⑦ チラシ・パンフレットを作成し、梨っこ食堂の対象地域に配布する。 						
<p>今後の展望</p>	<p>★将来、居場所・拠点を商店街の店舗又は近隣の古民家を賃借し、安定的に確保、誰もが立ち寄れる実家的な雰囲気の居場所開催を持続可能とする。子育てママさんの休憩所、時にはスタッフがお子様と遊び、ママさんはお昼寝なども可能な安心できる居場所とし、子育て支援の場とする。</p> <p>★経験豊かな高齢者の役割を再構築し、地域で子どもや高齢者をお互いに見守り、不足を補い合える繋がりを作る。</p> <p>★学校に行きたくない子どもの居場所としても活用できる子どもの学習支援の場とする。</p> <p>★防災、認知機能低下、フレイル予防（子どもも大人もごちゃませ）の拠点となる。</p> <p>★未来の貧困サイクルを断つ。</p>						

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

	科 目	金 額	積算内訳
団 体	寄付金	¥ 85,110	
	参加費	¥ 24,000	300円×80人(大人)
	団体拠出金	¥ 14,060	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 123,170	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 223,170	

【支出】

	科 目	予算額	積算内訳	
助 成 金 の 交 付 対 象 経 費	消耗品費	¥ 73,490	食材・お弁当パック代72,000円(30人×100円×2回×12か月) コピー用紙代 1,490円	
	保険料	¥ 8,560	子ども食堂保険	
	使用料及び賃借料	¥ 54,120	市民センター	イベント ホール 9,060円×2回 調理実習 料理教室&会議室 2,400円×10回
			高塚新田集会場	倉庫又は畳室 500円×24回
	印刷製本費	¥ 22,000	印刷機使用代(チラシ、パンフレット)	
	印刷製本費	¥ 5,000	チラシ5円×1,000枚	
	対象経費の合計 (D)	¥ 163,170		
そ の 他 経 費	交通費・その他	¥ 60,000	食材受け取り・運搬・買い出し・個別訪問・フードバンク手 伝い電車代金	
	その他経費の合計 (E)	¥ 60,000		
合計額 (F) = (D+E)		¥ 223,170		

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 8

《 ステップアップ助成 》

漫画・アニメ・ライブ配信で
松戸の魅力 PR 事業

超普通スタジオ

事業計画書

	事業名	漫画・アニメ・ライブ配信で松戸の魅力PR事業
	団体名	超普通スタジオ
事業概要		
<p>松戸の魅力発信を目的としたご当地作品制作・ライブ配信を行います。松戸の魅力をも市民から収集し、その情報を基にした超普通都市マツド伝説の漫画3話、アニメ3話を制作します。本作品は松戸に縁のある市民が「キャラクター制作」「声優」として作品に参加できる形で行います。また、定期的な松戸ライブ配信を実施します。松戸に縁のある声優をメインで出演し、キャラクターを使いつつ、松戸の情報発信・松戸の魅力交換の場を作り、松戸愛を築く環境を構築します。</p>		
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>IT化の進行・コロナ禍により、人と人が関わる機会が少なくなり、人々の地域に対する関わりが希薄になっています。また、その無関心さが、ごみのポイ捨てなど街の景観を阻害し、地元への愛着を弱めています。</p> <p>○SUUMO 住みたい街ランキング 2021 関東版 住みたい街ランキング 68位（前年：71位）</p> <p>○国勢調査を基にしたサービスである「生活ガイド.com」にて、「地域交流」「愛着」という面で低水準</p>	
事業の目的	<p><u>1. 地域住民同士の交流・地元愛を深めること</u> 松戸市民(主に松戸市の学生)がキャラクター制作、声優としてご当地漫画・アニメ参加できる体験イベントを実施します。</p> <p><u>2. 松戸の魅力情報発信</u> 市民から収集した松戸の魅力情報を文章や口コミよりも伝わりやすい漫画・アニメ・ライブ配信で発信します。</p> <p><u>3. 松戸愛の向上</u> 松戸声優によるライブ配信を行います。その際に視聴者と直接松戸トークを行い、松戸愛を築く環境を作ります。</p>	
事業内容	<p>① 松戸の魅力情報収集 松戸市民へ直接聞き込みを実施し、SNSからも情報収集を行います。</p> <p>② 市民参加型体験イベントを通じたご当地漫画・アニメ制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松戸のご当地漫画&アニメ制作体験イベントへの参加者募集を行います。 ＜イベント＞「キャラクター制作体験」「声優体験」の2イベント ＜募集方法＞ポスターやHP、SNS、募集サイト ＜参加資格＞松戸に縁のある市民最大6名ずつ ※学生の参加費用を安価にして学生が参加しやすくします ・キャラクター制作体験では、「講師によるキャラクターデザイン講義」「各々が思う松戸の魅力をテーマにしたキャラクター制作」を行います。 ・上記で生まれたキャラクターと①の情報から漫画・アニメのストーリー案を制作。現地調査・取材を行い、脚本案を制作します。 ・声優体験では、完成した脚本を基にプロの声優と一緒にアニメに出演できるアフレコイベントを実施します。 ・上記と別でプロ声優（メインキャラ+ゲストキャラ）音声収録を行います。 ・完成した超普通都市マツド伝説の漫画・アニメとしてSNSで公開します。 	

	<p>・制作したイラストを活用したグッズ制作・販売をし、売り上げを事業費に充当します。</p> <p>【支出】インク(カラー4色)、インク(黒)、ポスター印刷用紙、プリンタ用紙、ポスター印刷費、会場費、脚本制作費、声優出演費、スタジオ使用料、機材レンタル費、楽曲制作費</p> <p>③ 松戸声優ライブ配信(月1回生放送)</p> <p>・①②の情報から構成台本を制作。ライブ配信ができる環境を作ります。配信では声優(主に超普通都市マツド伝説主人公柱谷キリ役)が松戸情報の発信、松戸の特産品やお土産紹介を通して視聴者と直接松戸の話をしていきます。視聴者が松戸に興味を持ったり、市民が松戸愛を向上できる内容にします。</p> <p>・配信ではスーパーチャット(配信における視聴者の有料コメント課金機能)で収入を得て、クオリティアップを目指します。</p> <p>【支出】特産品・お土産、出演費、BGM制作費、機材レンタル費</p> <p>スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="432 840 1412 1323"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>①松戸の魅力情報収集</td> <td>①構成員/松戸市民/松戸市内、SNS</td> </tr> <tr> <td>4~5</td> <td>②キャラクター制作体験</td> <td>②構成員/松戸市民(イベント参加者)/松戸市内</td> </tr> <tr> <td>6~8</td> <td>②調査活動・脚本制作</td> <td>②構成員/松戸市内</td> </tr> <tr> <td>8~9</td> <td>②声優体験・音声収録</td> <td>②構成員、外部声優(4名)/松戸市民(イベント参加者)/都内 or 松戸市内</td> </tr> <tr> <td>10~3</td> <td>②漫画・アニメ制作・公開(3話ずつ)</td> <td>②構成員/地域住民、全国民/SNS、動画サイト</td> </tr> <tr> <td>6~3</td> <td>③構成台本制作(10回) ③ライブ配信(10回)</td> <td>③構成員、外部声優(1~2名)/地域住民、全国民/松戸市内(YouTube)</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4	①松戸の魅力情報収集	①構成員/松戸市民/松戸市内、SNS	4~5	②キャラクター制作体験	②構成員/松戸市民(イベント参加者)/松戸市内	6~8	②調査活動・脚本制作	②構成員/松戸市内	8~9	②声優体験・音声収録	②構成員、外部声優(4名)/松戸市民(イベント参加者)/都内 or 松戸市内	10~3	②漫画・アニメ制作・公開(3話ずつ)	②構成員/地域住民、全国民/SNS、動画サイト	6~3	③構成台本制作(10回) ③ライブ配信(10回)	③構成員、外部声優(1~2名)/地域住民、全国民/松戸市内(YouTube)
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など																				
4	①松戸の魅力情報収集	①構成員/松戸市民/松戸市内、SNS																				
4~5	②キャラクター制作体験	②構成員/松戸市民(イベント参加者)/松戸市内																				
6~8	②調査活動・脚本制作	②構成員/松戸市内																				
8~9	②声優体験・音声収録	②構成員、外部声優(4名)/松戸市民(イベント参加者)/都内 or 松戸市内																				
10~3	②漫画・アニメ制作・公開(3話ずつ)	②構成員/地域住民、全国民/SNS、動画サイト																				
6~3	③構成台本制作(10回) ③ライブ配信(10回)	③構成員、外部声優(1~2名)/地域住民、全国民/松戸市内(YouTube)																				
<p>既存の事業からステップアップする部分 (ステップアップ助成のみ)</p>	<p>これまでは、第1段階目である「松戸を舞台にした漫画・アニメ作品が制作されていること」を「松戸市民」へ認知してもらうことを目的に活動してきました。わかりやすいサンプルとなる作品ができたことで、これからは市民が参加できる作品制作&ライブ配信を行います。当団体のみが自己満足で制作する企画ではなく、市民が作品に参加できる松戸市一体となった作品へと昇華し、松戸愛の向上、地域住民の交流できる環境の構築を行います。</p>																					
<p>事業の目標</p>	<p>A. 体験イベントへの参加者数【応募数合計：12人】 B. 漫画&アニメ&ライブ配信の閲覧数【合計：50,000回】</p>																					
<p>今後の展望</p>	<p>【2024年度】市民活動助成制度を利用した最終年度。3年続けることにより増えた認知度を活かし、将来漫画家やイラストレーター、声優を目指す学生や過去に目指していた大人たちが参加できる漫画・アニメ作品を制作。市民と一体となり、松戸愛に溢れた集大成となるご当地作品を制作します。</p> <p>【2025年度以降】全国展開フェーズとして、松戸市や松戸市の企業と連携し、漫画やアニメの制作、テレビ放送を行います。松戸市民に向けた作品・全国に向けた作品を制作していき、松戸市の魅力発信・地域活性化につなげます。松戸のPRと言え、超普通都市マツド伝説と言われる作品に成長させ、松戸市の情報発信ツールとして成長させます。</p>																					

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

	科目	金額	積算内訳
団体	学生参加料(キャラクター制作)	¥ 4,000	500円×学生4人+1,000円×社会人2人=4,000円
	学生参加料(声優)	¥ 8,000	500円×学生4人+3,000円×社会人2人=8,000円
	スーパーチャット、グッズ売上	¥ 100,000	スーパーチャット 内訳：1,000円×10件=10,000円 グッズ 内訳：1,000円×90個=90,000円
	団体拠出金	¥ 169,050	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 281,050	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 300,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 581,050	

【支出】

	科目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 161,000	出演費(声優) 7,000円×2回=14,000円 出演費(声優) 22,000円×2回=44,000円 出演費(声優) 16,500円×2名=33,000円 出演費(配信) 7,000円×10回=70,000円
	消耗品費	¥ 20,650	インク(カラー4色) 1,360円×4種=5,440円 インク(黒) 1,580円×1種=1,580円 ポスター印刷用紙 2,750円×1箱(100枚入り)=2,750円 プリンタ用紙 880円(500枚入り)=880円 特産品・お土産(配信) 1,000円×10種=10,000円
	印刷製本費	¥ 5,000	ポスター印刷費 50円×100枚=5,000円
	使用料及び賃借料	¥ 198,000	スタジオ使用料(音声収録) 33,000円×2回=66,000円 機材レンタル費(音声収録) 33,000円×2回=66,000円 会場費(音声収録) 11,000円×1回=11,000円 会場費(キャラクター制作体験) 5,500円×10回=55,000円
	委託料	¥ 90,000	楽曲制作費(アニメ) 10,000円×3話=30,000円 脚本制作費(漫画・アニメ) 10,000円×3話=30,000円 BGM制作費(配信) 30,000円×1セット=30,000円
	対象経費の合計 (D)	¥ 474,650	
その他経費	交通費	¥ 16,400	交通費 1,200円×10回=12,000円 交通費 440円×10回=4,400円
	経費	¥ 60,000	アニメイラスト制作費 20,000円×3点=60,000円
	報償費	¥ 30,000	講師代 10,000円×1回=10,000円 募集ページ制作費 10,000円×1回=10,000円 ポスターデザイン料 10,000円×1回=10,000円
	その他経費の合計 (E)	¥ 106,400	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 581,050	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 9

《 ステップアップ助成 》

冒険山開放に伴う見守り事業

冒険山開放委員会

事業計画書

事業名	冒険山開放に伴う見守り事業
団体名	冒険山開放委員会

事業概要
<p>小金北小学校にある遊具施設（冒険山）を開放し、地域を超えた子ども達が、自由に、安全に遊べるよう、その見守り活動と・体験広場を開催し、用具の準備・工作のアドバイス等を行う。イベントを通じて、外遊びの楽しさを伝え普段の活動の参加者の増員を図る。</p>

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	子どもたちを取り巻く環境は大きく変わり、外遊びをする子どもたちが減少し続けています。現在日本で直面している多くの問題の根は深く難問が山積みされています。現在の子どもを取り巻く環境は、現在の大人たちが作り出したものでもあります。オンラインセミナーや、ミニ集会などで子育て世代の方々とも問題解決のために交流を図ります。															
事業の目的	冒険山を開放し、危険を自分自身で感じられる自立心と挑戦力の醸成に寄与すること。また地域を超えた子ども達が遊びを通じて集うことにより、子ども達の視野を広げ、相互の存在を認めあえる場の提供等を目的とします。															
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>① 冒険山開放日の参加者見守りと、各種体験広場の開催。 （冒険山開放日：毎月第1・2日曜日 1時から4時）子育て世代 体験広場：（竹馬体験・竹ぼっくり遊び・ストラックアウト ・こま回し・けん玉） また、年3回程度学校外の浅間公園に出かけ体験広場の出前をし活動の認知度を広げる。</p> <p>② 里山散策とザリガニ釣り大会 令和5年7月または8月</p> <p>③ 焼き芋の集い 令和5年11月</p> <p>④ 子育て世代の地域住民に対してオンラインセミナーの開催 （1）講師 下正宗（前東葛病院院長） 6月 （2）講師 大久保俊輝（麗澤大学 特任教授） 2月</p> <p>⑤ 新春凧揚げ大会 1月（東洋学園大学グラウンド）</p> <p>①～⑤で遊びにきた親子にチラシを配布し活動を宣伝する。</p> <p>スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月～3月</td> <td>開放時の見守り・体験広場</td> <td>隊員：2～4名・北小校庭、中金杉浅間公園 地域の子どもたち</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>オンラインセミナーの開催</td> <td>外部講師 下正宗（前東葛病院院長）、子育て世代の地域の住民</td> </tr> <tr> <td>7月または8月</td> <td>里山散策とザリガニ釣り大会</td> <td>根木内歴史公園 地域の子どもたち</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>焼き芋の集い</td> <td>中金杉浅間公園、地域の子どもたち（大道芸人 KAYA）</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4月～3月	開放時の見守り・体験広場	隊員：2～4名・北小校庭、中金杉浅間公園 地域の子どもたち	6月	オンラインセミナーの開催	外部講師 下正宗（前東葛病院院長）、子育て世代の地域の住民	7月または8月	里山散策とザリガニ釣り大会	根木内歴史公園 地域の子どもたち	11月	焼き芋の集い	中金杉浅間公園、地域の子どもたち（大道芸人 KAYA）
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など														
4月～3月	開放時の見守り・体験広場	隊員：2～4名・北小校庭、中金杉浅間公園 地域の子どもたち														
6月	オンラインセミナーの開催	外部講師 下正宗（前東葛病院院長）、子育て世代の地域の住民														
7月または8月	里山散策とザリガニ釣り大会	根木内歴史公園 地域の子どもたち														
11月	焼き芋の集い	中金杉浅間公園、地域の子どもたち（大道芸人 KAYA）														

	<table border="1"> <tr> <td>1月</td> <td>新春凧揚げ大会</td> <td>東洋学園大学グランド、地域の子どもたち（大道芸人 KAYA）</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>オンラインセミナー</td> <td>外部講師 大久保俊輝（麗澤大学特任教授）、子育て世代の地域の住民</td> </tr> </table>	1月	新春凧揚げ大会	東洋学園大学グランド、地域の子どもたち（大道芸人 KAYA）	2月	オンラインセミナー	外部講師 大久保俊輝（麗澤大学特任教授）、子育て世代の地域の住民
1月	新春凧揚げ大会	東洋学園大学グランド、地域の子どもたち（大道芸人 KAYA）					
2月	オンラインセミナー	外部講師 大久保俊輝（麗澤大学特任教授）、子育て世代の地域の住民					
<p>既存の事業からステップアップする部分 （ステップアップ助成のみ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントの中で子どもたちに人気のある大道芸人 KAYA 氏を呼び、子どもたちの参加増を図り普段の活動の PR を促進する。 ・ 冒険山を開放するだけでなく、子どもが集まる場所（浅間公園）に出かけて体験広場などの事業を行う。 ・ オンラインセミナーの実施を増やす。 <p>計画は2回ですが講師の都合さえつけば回数を増やし、子育て世代の地域の住民に、子どもの成長にとって遊びがいかに大切なものであるか理解してもらいたい。そして国の未来は子どもたちの中にあるという事を、認識していただきたい。</p> <p>人数に関わらず簡単に開催でき、回数を重ねることによって気軽に参加していただけるように認知度アップする。</p>						
<p>事業の目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① コロナ禍の影響もうけて外で遊ぶ子供が減ってきている。イベントを強化することによって、遊ぶ楽しさを子供たちに楽しさを理解してもらい、普段の開放日の参加者10人の増加を図る。 ② 継続的な事業の展開を目指すには、見守り隊の人員体制の強化が必要です。幅を広げて近隣の自治会、町会にも呼び掛ける。 ③ 遊びに来た親子にチラシを配布するなど宣伝活動をし、小金北小学校主体の事業から幅を広げ、小金北地区の広範囲の小学生の参加を促す活動をする。（平賀、東平賀、殿平賀、大金平、中金杉、幸田、大谷口など） 						
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「子どもたちの健やかな成長を願って」というテーマで活動を続けておりますが、現在子どもたちを取り巻く環境はますます厳しさを増しております。こんな環境を作り出した原因の中には親世代が作り出した問題もあります。ミニ集会、オンラインセミナーなどの機会を利用して、子育て世代にも子どもと遊びの大切さや子どもを取り巻く環境の大切さ等について理解をいただけるように働きかける。 ・ 冒険山は小学生なら誰もが感じる素晴らしい遊び場です。その遊び場を北小学校だけでなく近隣の小学生なら誰もが楽しめる場所としてさらに広げたいと考える。 ・ ミニ集会の開催を学校側に提案する。 						

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

	科 目	金 額	積算内訳
団 体	関係団体寄付金	¥ 20,000	近隣町会からの寄付金
	団体拠出金	¥ 23,346	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 43,346	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 210,114	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 253,460	

【支出】

	科 目	予算額	積算内訳	
助 成 金 の 交 付 対 象 経 費	報償費	¥ 30,000	講演会謝礼 (10,000×2名) 大道芸人謝礼 (5,000円×2回)	
	消耗品費	¥ 105,000	ザリガニ釣り大会 12,000	材料代 @300×40人 (釣り竿一式、賞品代、餌代)
			焼き芋 60,000	材料代 @500×120人 (芋代、ガス代、炭代他 割りばし、容器など)
			凧あげ 24,000	材料代 @200×120 (凧、タコ糸代他)
			コピー用紙インク代 9,000	インク代 8,000 @1,000×8 コピー用紙代 1,000 @500×2
	使用料及び賃借料	¥ 25,500	打合せ会場使用料 9,000 焼き芋機レンタル料 16,500	中金杉青年館 @1,500×6回 @16,500×1台
	印刷製本費	¥ 17,000	コピー代 パウチ代	(カラー@10×1500) (@10×200)
	委託料	¥ 40,000	サツマイモ調理委託 (運送費込み) 30,000円 ポスターデザイン料@5,000×2	
	保険料	¥ 15,960	行事保険	見守り@560×12回 イベント@1,400×1 @3,920×2
	対象経費の合計 (D)		¥ 233,460	
そ の 他 経 費	食糧費	¥ 20,000	見守り飲み物 イベント昼食代	
	その他経費の合計 (E)	¥ 20,000		
合計額 (F) = (D+E)		¥ 253,460		

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 1 0

《 スタート助成 》

松戸市内廃棄食糧再利用事業

おからを食べよう会

事業計画書

事業名	松戸市内廃棄食糧再利用事業
団体名	おからを食べよう会

事業概要
料理の講習会を通して、松戸市内の豆腐屋などの地域の食品製造店及びその製品の再普及を図る。それと共に、当団体のテーマである「おから」を筆頭とする廃棄されることの多い食品の認知拡大、食品の再利用や利用用途の再提案を行う。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	国産大豆を扱っている豆腐屋がいくつかある。そこで毎日のように豆腐が作られる際に副産される「おから」はとても栄養価が高く安価である為に、生活習慣病の改善をはじめ便秘解消など、多くの効果があるとされている。しかし、松戸市内では豆腐の生産に比例して副産されるおからが多く処分されてしまっている。豆腐屋に限らず、おからなど利用価値はあるが消費者の目に止まっておらず無駄になっている食材を世に向けて発信し、消費を促す事で地元の生産者を消費者が支え、食材が消費者の健康を支えるという相乗効果を生み出すと考える。
---------------------	---

事業の目的	当団体のテーマである「おから」を筆頭とする廃棄される事の多い食品の認知拡大、食品の再利用や利用用途の再提案を行う。また、廃棄されてしまう食材が美味しく食べられるという経験を通して松戸市の子供達に食育として触れてもらう。
-------	---

事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>食料品生産者や栄養士の方を講師として招き、子供たちやその親世代を対象として廃棄されることの多い食料を利用した料理の講習会を行う。チラシは松戸市の小学校に配布し、親子や親世代の参加者を募る。講習会の会場は馬橋市民センターを想定。参加者の定員は一回につき最大20名。会場の定員は最大26名。参加費は一人につき1,000円。講習会の材料は市内で生産されたもので旬のものを積極的に用いる。講習会ではその場で食事は行わず、お持ち帰りをする。もし、持ち帰る容器を忘れてしまった場合はフリーザーバッグを配布する。全講習会終了後、事業に携わった市内食料品店に構成員が対象とした食材の廃棄量が減少したのか実際に伺い調査する。年間を通して5回行う講習会やその活動内容のSNS掲載などによって認知の普及や食育の活動を行う。対象となる食品を利用した新しいメニューや商品の考案を行う。</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1"> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> <tr> <td>4・5月</td> <td>講習会の準備</td> <td>構成員 場所：会長宅</td> </tr> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4・5月	講習会の準備	構成員 場所：会長宅
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など					
4・5月	講習会の準備	構成員 場所：会長宅					

	6月	プレ講習会	構成員 対象：構成員 場所：馬橋市民センター
	7月	講習会開催	構成員、外部講師 対象：親子 場所：馬橋市民センター
	8月	講習会開催	構成員、外部講師 対象：親子 場所：馬橋市民センター
	9月	講習会の準備	構成員 場所：会長宅
	10月	講習会開催	構成員、外部講師 対象：親子 場所：馬橋市民センター
	11月	講習会の準備	構成員 場所：会長宅
	12月	講習会開催	構成員、外部講師 対象：親子 場所：馬橋市民センター
	1月	講習会の準備	構成員 場所：会長宅
	2月	講習会開催	構成員、外部講師 対象：親子 場所：馬橋市民センター
	3月	事業後調査	構成員 対象：市内食料品店
既存の事業から ステップアップ する部分 (ステップアップ 助成のみ)			
事業の目標	<p>全5回の講習会で参加者の合計100人以上を目指す。</p> <p>親世代や子供たちなどの次世代における廃棄されやすい食品の認知拡大。</p> <p>講習に携わった事業者や市内食料品店における対象商品の廃棄率20%減を目指す。</p>		
今後の展望	<p>松戸市内における廃棄されやすい食品の認知拡大の結果、大型食料品店だけでなく市内の個人営業の生産業を盛り上げていきたい。そして、食品の再利用や利用用途の再提案から廃棄率を低下させ消費者の健康を向上させたい。</p>		

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

	科 目	金 額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 3,120	事業費の一部を団体の会計より拠出
	講座参加費	¥ 100,000	1,000円×20人×5回
	自己資金の合計額 (A)	¥ 103,120	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 203,120	

【支出】

	科 目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 40,000	講師謝礼 8,000円×5回
	印刷製本費	¥ 18,510	両面カラーチラシ×A4×10,000部×1.851円
	使用料及び貸借料	¥ 10,560	440円×4時間×6回
	食糧費	¥ 130,000	食材1,300円×20人×5回
	消耗品費	¥ 550	フリーザーバッグ25枚入り×5個×110円
	対象経費の合計 (D)	¥ 199,620	
その他経費	交通費	¥ 3,500	講師の交通費 700円×5回
	その他経費の合計 (E)	¥ 3,500	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 203,120	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 1 1

《 スタート助成 》

「おひとりさま安心生活相談」事業

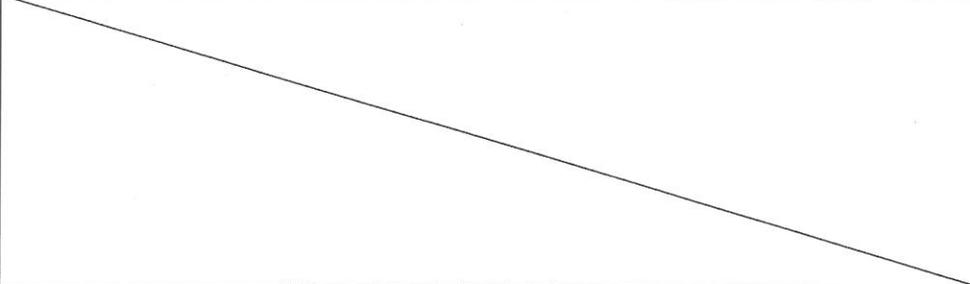
特定非営利活動法人

おひとりさま安心コンシェルジュ

事業計画書

事業名	「おひとりさま安心生活相談」事業
団体名	特定非営利活動法人 おひとりさま安心コンシェルジュ

事業概要	
<p>高齢者（独居高齢者）や障がい者に対して、①生活支援事業、②身元保証及び成年後見制度、③終活、死後事務（お葬式）、④その他（税金、年金、仕事等）について「地域包括ケアシステム」の実現に向けて、税理士・司法書士・ケアマネジャー・社会保険労務士の専門職がそれぞれの専門分野を生かして、法的な問題も含む困難な相談や対応することで安心な生活を提供する。</p>	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>松戸は常盤平団地をはじめ独居高齢者を多く抱えています。独居高齢者には身元保証人がいないため、施設入居ができない、医療や介護の契約ができないなど、生活が困難を極めた方が多い状況にある。</p> <p>また、多くのNPO等があるものの、福祉的支援（若しくはボランティア）の側面が強い場合があり、特に法的な問題への対応に限界があること。</p>
事業の目的	<p>施設入居など困難に直面している高齢者（独居高齢者）や障がい者に対して、本人だけでなく、親族、ケアマネジャー、施設担当者は、法的な問題など自力での対応が出来ないケースも多く、法的支援が可能な専門職による相談会の実施および当NPOの対応力の周知を行い相談と対応の機会を増やすことで、住み慣れた地域で自分らしく最後まで生活できるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の実現に近づけ、より安心した生活に寄与する。</p>
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>① 安心生活相談会（税金、年金、仕事等も含む）</p> <p>以下の困難に直面した方々に対する相談会を行い、生活支援や法的支援（身元保証、事後事務、成年後見等）等について、制度説明や当NPOでの対応可能性などを案内する。</p> <p>高齢者（独居高齢者）には、</p> <p>「おひとりさま」であっても安心して生活できるように、住まい・医療・介護・生活支援等を提供する「地域包括ケアシステム」の実現に向け、終活・お墓・介護保険外サービス、身元保証、死後事務、成年後見制度等の相談</p> <p>障がい者（および保護者）に対しては、</p> <p>現在の生活（年金や仕事等）だけでなく、保護者等が亡くなった「おひとりさま」以後について相談を受け付け、ご本人の状況に応じた、財産、税金、見守り、成年後見制度等の相談</p> <p>2 周知活動</p> <p>当NPOが「お困りの高齢者（独居高齢者）や障がい者」に直面するケアマネジャーや施設等に対してチラシ・パンフレットを送付し、身元保証や施設入居、介護・入院契約等の法的問題も含めた相談が可能であると伝える。</p>

	<p>2 スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="448 264 1402 577"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月</td> <td>周知活動</td> <td>構成員、松戸の福祉施設等</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>安心生活相談会</td> <td>構成員、松戸市民、市民劇場等</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>周知活動</td> <td>構成員、松戸の福祉施設等</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>安心生活相談会</td> <td>構成員、松戸市民、市民劇場等</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>周知活動</td> <td>構成員、松戸の福祉施設等</td> </tr> <tr> <td>翌年2月</td> <td>安心生活相談会</td> <td>構成員、松戸市民、市民劇場等</td> </tr> </tbody> </table> <p>※安心生活相談会や周知活動後、ご希望やご連絡により、お困りのご本人および関係者（親族、ケアマネージャー、施設担当者等）と面談を実施し、必要に応じ、生活支援だけでなく、身元保証、死後事務、成年後見等の法的支援を含めた対応を行う。</p>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	5月	周知活動	構成員、松戸の福祉施設等	6月	安心生活相談会	構成員、松戸市民、市民劇場等	9月	周知活動	構成員、松戸の福祉施設等	10月	安心生活相談会	構成員、松戸市民、市民劇場等	12月	周知活動	構成員、松戸の福祉施設等	翌年2月	安心生活相談会	構成員、松戸市民、市民劇場等
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など																				
5月	周知活動	構成員、松戸の福祉施設等																				
6月	安心生活相談会	構成員、松戸市民、市民劇場等																				
9月	周知活動	構成員、松戸の福祉施設等																				
10月	安心生活相談会	構成員、松戸市民、市民劇場等																				
12月	周知活動	構成員、松戸の福祉施設等																				
翌年2月	安心生活相談会	構成員、松戸市民、市民劇場等																				
<p>既存の事業から ステップアップ する部分 (ステップアップ 助成のみ)</p>																						
<p>事業の目標</p>	<p>① 高齢者（独居高齢者）や障がい者（その保護者）が直面する問題の解決と安心感の醸成 【年間30件以上の相談】</p> <p>② 松戸のケアマネージャーや福祉施設から直接の相談 【年間10件以上の相談】</p> <p>③ 身元保証等が必要な高齢者（独居高齢者）に、適切なサービスを繋げる。</p>																					
<p>今後の展望</p>	<p>相談会を通じて、高齢者（独居高齢者）や障がい者（その保護者）の方々が、安心した生活を送れるように、当NPO法人が、相談の窓口だけでなく、実際に法的な対応（身元保証や成年後見等）についても信頼できる最適な団体であるとの認識を得つつ、特に松戸の独居高齢者が安心して生活に寄与していきたい。</p>																					

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

	科目	金額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 51,920	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 51,920	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 151,920	

【支出】

	科目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	使用料及び賃借料	¥ 7,920	相談会 (3時間) : 1回 松戸市市民劇場 : 1回990円 2640円×3回 プロジェクター・スクリーン : 1回 1,650円
	食糧費	¥ 6,000	相談会参加者のための お茶菓子代 200円×10名×3回
	消耗品費	¥ 12,000	周知活動用封筒等、相談会用消毒筆記具等 ○周知活動分10,000円 (内訳) 角2封筒500枚 : 5,000円、 タックシール500枚 : 3,000円 コピー用紙A41000枚 : 1,000円 糊等文具 : 1,000円 ○相談会分2,000円 消毒用アルコール、茶菓子用皿や 紙コップ、筆記具10本等
	印刷製本費	¥ 70,000	パンフレット、チラシ 作製 パンフレット : 40,000円 (80円×500 部) チラシ : 30,000円 (2円×5000部×3回)
	委託料	¥ 20,000	パンフレットデザイン 料 20,000円×1回
	通信運搬費	¥ 36,000	切手代@120円×100施 設等×3回
対象経費の合計 (D)		¥ 151,920	
その他経費			
	その他経費の合計 (E)	¥ 0	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 151,920	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 1 2

《 スタート助成 》

「e スポーツで松戸くるくる、
はじめのいっぽ」事業

松戸 e スポーツ準備会

事業計画書

事業名	「e スポーツで松戸くるくる、はじめのいっぽ」事業
団体名	松戸 e スポーツ準備会

事業概要	
<p>【e スポーツ】を活用し、【松戸くるくる】つまり「松戸市内での好ましい経済的、社会的循環」を確立させるため、e スポーツ体験会等を実施する。</p> <p>また、地域の子どもが所属する商店会チームの創設協力、それらチームが加盟する e スポーツ大会（リーグ）の企画と運営をし、地域の一体化を図る。</p>	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>松戸は、まもなく、人口50万都市を迎えるにもかかわらず、『松戸市民意識調査（令和3年度）』からみても、松戸に愛着を持つ市民層は一定数にとどまっていると言わざるを得ず、同様に、地域の根底となるべき商店会や自治会等は、会員数の減少や活動力の低下に直面していることから、市内での好ましい経済的、社会的循環が確立されているとは言えない。</p>
事業の目的	<p>市民だけでなく、商店会等を巻き込み、草の根から松戸の新たな魅力と活力を創生する手段として、e スポーツを活用普及させつつ、商店会や自治会等が主体となり、松戸を担う子ども世代と積極的に関わることで、松戸の底上げを推進したい。</p>
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>【e スポーツ】を活用し、【松戸くるくる】つまり「松戸市内での好ましい経済的、社会的循環」を確立させる</p> <p>① 児童・生徒等の子ども世代を対象とした「e スポーツ体験会（競技会、下記大会の予選会）」の実施 会場：ジェクサー・e スポーツステーション JR 松戸駅店（松戸駅中央改札口前）に協力要請。</p> <p>② 保護者、教育関係者等との「意見交換会」の実施 e スポーツが単なる「テレビゲーム」との認識を持つ保護者層に対して、《競技スポーツとしての教育的効果》を周知し、子ども世代を育てる視点から、親子で一緒に楽しめる e スポーツの活用方法の意見聴取。 松戸駅ポスター掲示、広報紙やネットニュース等への掲載に合わせて、各学校や教育委員会等との協力を模索しつつ、e スポーツ関係者として一般社団法人日本 e スポーツ連合 (JeSU) 事務局や e スポーツ企画会社、プロ e スポーツ選手に参加を要請。</p> <p>③ 商店会 e スポーツチーム創設協力と「商店会対抗 e スポーツ大会（リーグ）」の企画運営 商店会が、主体的に募集などの活動ができるように、地域の子どもが所属する e スポーツチームの創設支援。 それらチームが加盟する「商店会対抗 e スポーツ大会（リーグ）」の企画と運営。</p>

	<p>「松戸市商店会連合会の事務局」である松戸商工会議所、松戸市の各部署（商工振興課や市民自治課等）に協力を仰ぎながら、各商店会などに対して、商店会活性化等の趣旨説明と参加・協力を要請。</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月～9月、12月～1月</td> <td>eスポーツ体験会（競技会）の実施 チラシの作成・配布</td> <td>構成員、松戸市民、jexer 松戸店、松戸駅に周知ポスター掲示や各商店会加盟店にチラシ配架等</td> </tr> <tr> <td>10月、2月</td> <td>eスポーツ意見交換会</td> <td>構成員、松戸の保護者・教育関係者、eスポーツ関係者、松戸市民劇場等</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>商店会対抗 e スポーツ大会の実施 チラシの作成・配架</td> <td>構成員、商店会等関係者、松戸市民、jexer 松戸店、松戸駅に周知ポスター掲示や各商店会加盟店にチラシ配架等</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	5月～9月、12月～1月	eスポーツ体験会（競技会）の実施 チラシの作成・配布	構成員、松戸市民、jexer 松戸店、松戸駅に周知ポスター掲示や各商店会加盟店にチラシ配架等	10月、2月	eスポーツ意見交換会	構成員、松戸の保護者・教育関係者、eスポーツ関係者、松戸市民劇場等	11月	商店会対抗 e スポーツ大会の実施 チラシの作成・配架	構成員、商店会等関係者、松戸市民、jexer 松戸店、松戸駅に周知ポスター掲示や各商店会加盟店にチラシ配架等
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など											
5月～9月、12月～1月	eスポーツ体験会（競技会）の実施 チラシの作成・配布	構成員、松戸市民、jexer 松戸店、松戸駅に周知ポスター掲示や各商店会加盟店にチラシ配架等											
10月、2月	eスポーツ意見交換会	構成員、松戸の保護者・教育関係者、eスポーツ関係者、松戸市民劇場等											
11月	商店会対抗 e スポーツ大会の実施 チラシの作成・配架	構成員、商店会等関係者、松戸市民、jexer 松戸店、松戸駅に周知ポスター掲示や各商店会加盟店にチラシ配架等											
事業の目標	<p>① eスポーツ体験会（競技会）参加者：延べ80名</p> <p>② 商店会対抗 e スポーツ大会（リーグ）：商店会6団体、選手延べ50名参加</p> <p>③ eスポーツ意見交換会：保護者、教育関係者、eスポーツ関係者合計20名参加</p>												
今後の展望	<p>毎月、eスポーツ体験会を開催し、松戸市民への認知度を高めていきつつ、商店会対抗 e スポーツ大会（リーグ）については、「松戸市商店会連合会」に加盟する商店会（令和4年度現在、41商店会）全てに拡大していきたい。</p> <p>今後、経済産業省などが意義や期待を認めているように、松戸が掲げるSDGsのターゲット達成の手段として、地域創生や松戸が直面する独居高齢者対策をはじめ、障がい者の活躍、子ども・青少年育成に関するeスポーツの活用の方法と実践について、行政、小中高大特別支援等の教育機関、協賛企業が互いに協力し合える官民学連携の架け橋となり、松戸の地域経済だけでなく、文教・社会福祉等の活性化に寄与していきたい。</p>												

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

	科目	金額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 50,280	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 50,280	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 150,280	

【支出】

	科目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	使用料及び賃借料	¥ 88,000	体験会：1回11,000円 (3時間) × 8回 松戸駅構内ジェクサー・eスポーツステーション JR松戸駅店
		¥ 22,000	商店会対抗eスポーツ大会：1回22,000円 (6時間) × 1回 松戸駅構内ジェクサー・eスポーツステーション JR松戸駅店
		¥ 5,280	意見交換会：2,640円 × 2回 松戸市市民劇場：1回990円 プロジェクター・スクリーン：1回1650円
	食糧費	¥ 10,000	500円 × 20名 意見交換会参加者お茶菓子代
	消耗品費	¥ 25,000	プリンターインク 20,000円 (5,000円 × 4色)、用紙5,000円 (500円 × 10包) 体験会等周知チラシ8,000部、事業紹介パンフレット500部
対象経費の合計 (D)		¥ 150,280	
その他経費			
	その他経費の合計 (E)	¥ 0	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 150,280	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 1 3

《 スタート助成 》

四世代のきずなで、
豊かな生活環境を実現する事業

小金原みんなでわくわくする会

事業計画書

事業名	四世代のきずなで、豊かな生活環境を実現する事業
団体名	小金原みんなでわくわくする会
事業概要	
老人から孫まで、四世代がより健康で安全・豊かな生活ができる居住環境を実現するため、小金原地区における地域活動を SDGs の視点から再構成し、全世代参画のもと、助け合える魅力あるまちづくりを実現する。	
取り組もうとする松戸市のテーマ(課題)	小金原地区は、松戸市でも高齢化が進んでいる地域と言われておりますが、その現状把握は十分でなく、また、若い世代へ街の魅力を十分に伝えられていないため、このままでは、「町内会活動は年寄りがやるもの」というとらえ方で、高齢化が益々進むと、現在の町内活動・地域活動すら提供できなくなってしまう可能性が有る。
事業の目的	四世代が、健康で安全・豊かな生活ができる災害に強い居住環境を実現するため、従来からの地域活動を SDGs 活動の一環として整理・進化させ、相互の協力体制による「ありがとう！」のまちづくりを目指す。
事業内容	<p>1 事業内容 (令和4年度は、SDGs の勉強会を通して、SDGs の全体趨勢や活動項目の理解を中心に進めてきたので、5 年度は、小金原の具体的活動として、進化・定着した市民活動とする。)</p> <p>【SDGs の 2 項目に絞り、次世代の担い手を増やす地域住民活動】 SDG 3; あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活と福祉の確保・推進 SDG11; 安全で災害に強く、持続可能な都市及び居住環境の実現</p> <p>1) SDGs による現活動の整理・進化⇒松戸市の活動を参考に実践に移行</p> <p>① 外部講師を招いて「SDG's × 地域活動」のテーマ掘起こしとグループアプローチ⇒合計4回の勉強会を計画しており、理解のさらなる浸透と実践活動展開を目指す。 “私は、〇〇実践をして、SDGs に参画します”の宣言！</p> <p>② SDGs3,11 項に関係した地域活動を見直すグループ別ワークショップの実施</p> <p>例(1)ごみの管理と清掃活動(町会)⇒定着化と当番制導入 (2)高齢者支援活動(老人会)⇒グリーンスローモビリティの活用支援(時間表・停留所表示、誘導等) (3)地域防災・防犯(防災リーダー・防犯委員)⇒西部防災センター見学会、防災訓練の実施(児童委員より根木内小等に案内・勧誘及び町会役員の子供家族、孫等にPR)</p> <p>2) 町内会の SWOT(強み弱み)分析作成による活動マトリックス作成 SDGs—SWOT 勉強会を通して、摘出項目の整理</p> <p>① 全世代の目から、現地域の良い点、悪い点の整理・分析。 家族内に持ち帰って、子供家族、孫と意見出し合う</p>

	<p>② 各項目の改善、対策案を具体化列記する。</p> <p>③ 具体項目を SDGs 項目に分類、整理する。⇒1)①との連携</p> <p>④ 即対応可能なこと、予算が必要なものを仕分けする。</p> <p>⑤ 案件毎のリーダーを決める。⇒1)②との連携</p> <p>⑥ 本年度の具体的活動計画策定と実施。</p> <p>⇒具体案、骨子ができ上がった時点で、活動 PR のチラシ配布し、特に若い世代の参画をアピールする。(2023/10)</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2023/5</td> <td>・第 5 回 SDGs 勉強会 SWOT 摘出項目の整理・分類と改善対策案の具体化</td> <td>実施体制;運営委員、外部講師 江戸川大学 佐藤秀樹先生 対象;地域住民 場所;小金原市民センター</td> </tr> <tr> <td>2023/7</td> <td>・防災センター見学会 小中学生も募集</td> <td>実施体制;運営委員、対象;(同上) 場所;西部防災センター</td> </tr> <tr> <td>2023/8</td> <td>・第 6 回 SDGs 勉強会 活動リーダーの選定と具体化案の詳細設定</td> <td>(第 5 回 SDGs 勉強会に同じ) グループ別ワークショップ</td> </tr> <tr> <td>2023/11</td> <td>・第 7 回 SDGs 勉強会 各グループ発表会</td> <td>(第 5 回 SDGs 勉強会に同じ)</td> </tr> <tr> <td>2024/2</td> <td>・第 8 回 SDGs 勉強会 とりまとめと今後の計画</td> <td>(第 5 回 SDGs 勉強会に同じ)</td> </tr> <tr> <td>通年 (1回/3月)</td> <td>・ごみ箱美化、整理整頓</td> <td>実施体制;運営委員、対象;地域住民、場所;各ごみ置き場</td> </tr> <tr> <td>通年 (1回/月)</td> <td>・グリーンスローモビリティの高齢者活用支援</td> <td>実施体制;運営委員、対象;地域住民、場所;各停留所誘導・補助</td> </tr> <tr> <td>通年 (1回/年)</td> <td>・バーベキュー、運動会 等地元住民行事の支援</td> <td>実施体制;運営委員、対象;地域住民、場所;各行事開催場所 若い参加者に活動 PR と参画提案</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	2023/5	・第 5 回 SDGs 勉強会 SWOT 摘出項目の整理・分類と改善対策案の具体化	実施体制;運営委員、外部講師 江戸川大学 佐藤秀樹先生 対象;地域住民 場所;小金原市民センター	2023/7	・防災センター見学会 小中学生も募集	実施体制;運営委員、対象;(同上) 場所;西部防災センター	2023/8	・第 6 回 SDGs 勉強会 活動リーダーの選定と具体化案の詳細設定	(第 5 回 SDGs 勉強会に同じ) グループ別ワークショップ	2023/11	・第 7 回 SDGs 勉強会 各グループ発表会	(第 5 回 SDGs 勉強会に同じ)	2024/2	・第 8 回 SDGs 勉強会 とりまとめと今後の計画	(第 5 回 SDGs 勉強会に同じ)	通年 (1回/3月)	・ごみ箱美化、整理整頓	実施体制;運営委員、対象;地域住民、場所;各ごみ置き場	通年 (1回/月)	・グリーンスローモビリティの高齢者活用支援	実施体制;運営委員、対象;地域住民、場所;各停留所誘導・補助	通年 (1回/年)	・バーベキュー、運動会 等地元住民行事の支援	実施体制;運営委員、対象;地域住民、場所;各行事開催場所 若い参加者に活動 PR と参画提案
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など																										
2023/5	・第 5 回 SDGs 勉強会 SWOT 摘出項目の整理・分類と改善対策案の具体化	実施体制;運営委員、外部講師 江戸川大学 佐藤秀樹先生 対象;地域住民 場所;小金原市民センター																										
2023/7	・防災センター見学会 小中学生も募集	実施体制;運営委員、対象;(同上) 場所;西部防災センター																										
2023/8	・第 6 回 SDGs 勉強会 活動リーダーの選定と具体化案の詳細設定	(第 5 回 SDGs 勉強会に同じ) グループ別ワークショップ																										
2023/11	・第 7 回 SDGs 勉強会 各グループ発表会	(第 5 回 SDGs 勉強会に同じ)																										
2024/2	・第 8 回 SDGs 勉強会 とりまとめと今後の計画	(第 5 回 SDGs 勉強会に同じ)																										
通年 (1回/3月)	・ごみ箱美化、整理整頓	実施体制;運営委員、対象;地域住民、場所;各ごみ置き場																										
通年 (1回/月)	・グリーンスローモビリティの高齢者活用支援	実施体制;運営委員、対象;地域住民、場所;各停留所誘導・補助																										
通年 (1回/年)	・バーベキュー、運動会 等地元住民行事の支援	実施体制;運営委員、対象;地域住民、場所;各行事開催場所 若い参加者に活動 PR と参画提案																										
既存の事業からステップアップする部分(ステップアップ助成のみ)	スタートアップ助成のため該当なし																											
事業の目標	<ol style="list-style-type: none"> SDGs 活動の地域浸透;全構成員(10名)、地域住民(10名) まちの長短所 SWOT 分析;全構成員(10名)、地域住民(10名)(含家族) SWOT 分析表の完成;掲示板及び回覧板に掲載 アクション計画書の作成とグループ活動 具体的活動の実施;実施状況進捗を掲示板及び回覧板に掲載、活動計画の 80%達成 																											
今後の展望	<ol style="list-style-type: none"> 上記活動を定着させ、次年度ステップアップ助成が申請できるように推進ロードマップを作成し、若い世代を巻き込んで実践を推進する。 非居住住宅の実態把握を図る。 																											

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 60,000	事業費の一部を団体会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 60,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 160,000	

【支出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 100,000	SDGs外部講師謝礼 25,000円x4回
	消耗品費	¥ 7,540	SDGs、SWOT勉強会資料 用紙；1.4円 x 8P x 100セット x 2種 インク；2650円 x 2
		¥ 5,940	ブレインストーミング (SWOT分析で抽出した案件⇒SDGs活動テーマ) 模造紙；110円(4枚) x 10枚 マジック；110円 x 12本x2色 用紙；1.1円 x 2000枚
	印刷製本費	¥ 20,000	・活動説明 ・活動成果 チラシ印刷 5円 x 2000枚x2回
	使用料及び賃借料	¥ 6,664	会場費 市民センターホール；1,666円 x 4回 (延長コード費用21円含む)
対象経費の合計 (D)		¥ 140,144	
その他経費	食糧費	¥ 13,062	勉強会・会合のお茶代 2177x4回 4354x1回
	除菌液	¥ 2,400	1200 x 2本
	雑費	¥ 4,394	
	その他経費の合計 (E)	¥ 19,856	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 160,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 1 4

《 ステップアップ助成 》

ときわだいらオープンアトリエ事業

特定非営利活動法人

ディープデモクラシー・センター

事業計画書

事業名	ときわだいらオープンアトリエ事業
団体名	特定非営利活動法人 ディープデモクラシー・センター
事業概要	
ひとりひとりの違いを認めあうことができる、誰かと出会い、楽しめる、小さくても地域にひらかれた場、オープンアトリエを創造します。2年目となる本年度は、表現の手法をさらに増やし、演劇、音楽、出版へと広げていきます。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	縮小ニッポンといわれるように、人口減少、少子高齢化、労働力不足、貧困の拡大、人々の孤立等の問題は、松戸市においても、年間の孤独死者数は218人（2016）、出生率は1.3（2015）、なんらかの障害をお持ちの方は19,223人（松戸市民25人にひとり/2016/身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者）、児童虐待の相談件数は685件（2016）、高齢者虐待の相談件数は173人（2016）、生活保護の保護率は19.89%となっており、深刻なものといえる。私たちNPOの日々の活動においても、地域で孤立し、様々な生きづらさを抱え、誰にも相談もできず、いのちや暮らしを脅かされている方々が日々、増加していることを実感しています。世代や経済的な状況を問わず、社会的に孤立している人々が増えていることが大きな課題であり、さらにその課題が、困窮、虐待、ホームレスなど、二次的、三次的な課題へとつながっています。そして同時にそのことが、支えあい、助け合いといった共生社会、共生地域の実現を妨げています。
事業の目的	支援の現場でいつも思うことは、どうしてもっと早く相談してくれなかったのか？ということです。程度の差はあれ、社会的に孤立した状態で暮らす多くの人々が、どうしたら、SOSを出してくれるようになるのか？私たちはずっと考えてきました。必要なものは、「自己開示」と「他者理解」。そして「創造」と「想像」、私たちは、まるで違う切り口の場を持つことで、地域で孤立する人々を包摂し、互いに理解できるのではないかと考え、誰かと出会い、一緒にアートを楽しめる、小さくても地域にひらかれた場・・・、地域におけるアートとケアのための場＜オープンアトリエ＞が有効なのだろうという結論にたどり着きました。人間が本来持っている表現への欲望を、自由に、気軽に参加できる表現の場、一人ひとりの違いを認めあうことができる時間。誰かと出会い、一緒にアートを楽しめる、小さくても地域にひらかれた場をつくること、そしてその場を一緒につくっていく人々を育成することで、社会的な孤立に抗っていきたいと思っています。 2年目となる本年度は、さらに表現を外に向けて行くことをテーマにし、演劇、音楽、出版など、地域や社会のなかで、つながりや関係性を育んでいく取り組みを実践していきます。

<p>事業内容</p>	<p>1 事業内容</p> <p>○ときわだいらくらしラボ・セミナー（3回） 演劇、音楽、出版といった表現をテーマに、外部講師を招いて、セミナー、ワークショップを開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月 老いと演劇のワークショップ 講師・菅原直樹（【老いと演劇OiBokkeShi】/予定） ・8月 “ローカル×発信” 自分メディアのつくりかた 講師・川口瞬（【真鶴出版】/予定） ・10月 ドラムサークル講師・野田憲一【グループコネクト】/予定） <p>○ときわだいらオープンアトリエ 2023（内部講師）ときわだいらくらしラボ 毎月一回、画材を使って誰でも参加できる表現の場を開設（7回）6月～12月</p> <p>○ときわだいらドラムサークル（内部講師） 毎月一回、誰でも参加できるリズム表現の場を開設（7回）6月～12月</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="459 846 1359 1263"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月～</td> <td>広報活動</td> <td>団体スタッフ、プレス、市内公共施設など</td> </tr> <tr> <td>6～12月</td> <td>オープンアトリエ（7回）</td> <td>団体スタッフ、内部講師、市民、ときわだいらくらしラボ</td> </tr> <tr> <td>6～12月</td> <td>ドラムサークル（7回）</td> <td>団体スタッフ、内部講師、市民、貸しスペース</td> </tr> <tr> <td>6～10月</td> <td>セミナー（3回）</td> <td>団体スタッフ、外部講師、市民、森のホール・リハ室（予定）、ときわだいらくらしラボ</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4月～	広報活動	団体スタッフ、プレス、市内公共施設など	6～12月	オープンアトリエ（7回）	団体スタッフ、内部講師、市民、ときわだいらくらしラボ	6～12月	ドラムサークル（7回）	団体スタッフ、内部講師、市民、貸しスペース	6～10月	セミナー（3回）	団体スタッフ、外部講師、市民、森のホール・リハ室（予定）、ときわだいらくらしラボ
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など														
4月～	広報活動	団体スタッフ、プレス、市内公共施設など														
6～12月	オープンアトリエ（7回）	団体スタッフ、内部講師、市民、ときわだいらくらしラボ														
6～12月	ドラムサークル（7回）	団体スタッフ、内部講師、市民、貸しスペース														
6～10月	セミナー（3回）	団体スタッフ、外部講師、市民、森のホール・リハ室（予定）、ときわだいらくらしラボ														
<p>既存の事業からステップアップする部分 （ステップアップ助成のみ）</p>	<p>私たちディープデモクラシー・センターはこれまで、NPO・市民活動団体の支援、生活困窮者、ホームレスの生活再建の支援、自然災害による被災者の支援、障害をお持ちの方の社会参加の支援などを行ってきました。ひとりひとりと向き合い、ともに歩きながら、「よりよく生きること」を追求してきました。この事業では、常盤平という街を舞台にして、さらにステップアップし、社会的孤立を生まない地域づくり、まちづくりへと挑戦していきたいと考えています。</p>															
<p>事業の目標</p>	<p>セミナーの参加者＝のべ60人 オープンアトリエの参加者＝のべ100人 ドラムサークルの参加者＝のべ70人</p>															
<p>今後の展望</p>	<p>常盤平という、人口増大、高度成長の時代から、高齢化、格差拡大、縮小ニッポンの時代を象徴する街を舞台に、週1回のオープンアトリエの実施を目指し、他地域での展開も目標にします。アートとケアが会うまちづくりを実現していきます。「創造」と「想像」を考えると、私たちは他者のいとなみに自分をかさね、「よりよく生きること」ができるのではないか・・・、地域や人々との出会いによって生まれた創造と想像が重なり合うとき、私たちもまた、それぞれが抱える生きづらさを、あらたな眺望を見せてくれるきっかけへと変えていことができると、信じ活動していきます。</p>															

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

	科 目	金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 168,500	事業費の一部を団体の会計より拠出
	オープンアトリエ参加費 (材料費)	¥ 40,000	@400×100人
	セミナー参加費	¥ 60,000	@1000×60人
	自己資金の合計額 (A)	¥ 268,500	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 300,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 568,500	

【支出】

	科 目	予算額	積算内訳
助 成 金 の 交 付 対 象 経 費	報償費 (セミナー講師謝金)	¥ 250,000	@100,000×2回、@50,000×1回、
	会場費 (セミナー会場費)	¥ 20,000	@20,000×1回 (ドラムサークル・森のホールリハーサル室)
	会場費 (ドラムサークル会場費)	¥ 21,000	@3,000×7回
	印刷製本費	¥ 50,000	@10×1000枚×5種 (セミナー3回、オープンアトリエ、ドラムサークル)
	委託料	¥ 50,000	チラシデザイン @10,000×5種 (セミナー3回、オープンアトリエ、ドラムサークル)
	消耗品費	¥ 50,000	絵の具@1,000×15 パステル@1,500×15 粘土@400×15 木材@100×30 文具、用紙 3,500
	対象経費の合計 (D)	¥ 441,000	
	そ の 他 経 費	交通費	¥ 85,000
食料費		¥ 42,500	当日スタッフの昼食代 500円×5人×17回
その他経費の合計 (E)		¥ 127,500	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 568,500	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 1 5

《 ステップアップ助成 》

[生きづらさ・ひきこもり]

一人ひとりに合わせてつながりが広がる事業

生きづらわーほりプロジェクト

事業計画書

事業名	[生きづらさ・ひきこもり] 一人ひとりに合わせてつながりが広がる事業
団体名	生きづらわーほりプロジェクト
事業概要	
ひきこもり当事者が集う場「つたわり」および風の家「はう」を軸にして、本人の状態や希望に応じて参加できる自宅でのたい肥づくり・ハーブ栽培、プレゼンテーション練習会を開催する。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	生きづらさを抱えひきこもり状態に陥ってしまった人達（以下「当事者」という）は、幅広い年代で非常に多く存在していることが明らかとなってきた。昨今多くのメディアでひきこもりに関する特集が組まれ、支援の重要性について関心や認識が高まっており、松戸市でも相談窓口の整備などが進められてきている。「居場所」と呼ばれる当事者同士が集い安心して過ごせる場・話せる場のニーズについては認識されてきたものの、それだけでは十分でなく、「居場所」に参加するまでのサポートや「居場所」に参加した後に当事者が一般社会につながる次の一歩に対するサポートなども必要である。
事業の目的	一口に「ひきこもり」といっても、外出するのが難しい当事者や外出はできても就労や地域の人と接するには不安がある当事者など、一人ひとり状態は異なることから、当事者の状態や希望に即してきめ細かくサポートを行う。
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>①生きづら Cooking-Meeting 「つたわり」(12回) 当事者が集まって、みんなでランチを作り、一緒に食べながら楽しく会話をして過ごす場「つたわり」を開催する。オンライン会議ツールも併せて活用し参加しやすくする。「安心して過ごせる場・話せる場」があることで当事者が外に出ていく端緒となりやすく、またそのような場で過ごすことで人と話す経験を得たり、他の当事者との情報交換を行ったりすることができる。</p> <p>②風の家「はう」(24回) 多くの当事者が集まって会話することをメインにした場では、いろいろな考えを述べたりする雰囲気には馴染めない当事者もいることから、少人数で集まる場、個別に相談したり、無理に話さなくても本を読むなどして自由に過ごせる場を作る。「居場所」に参加するのに慣れるのに利用することもできる。</p> <p>③たい肥づくり・ハーブ栽培によるつながりづくり(随時) 外出や人と接することが難しい状態の当事者に、コンポスト容器を提供して自宅を出た生ごみからたい肥を作ったり、ハーブ栽培キットを提供しハーブを育ててもらおう。当事者が作成したたい肥やハーブは、「つたわり」のほか、「まつど SDGs ノウエン」や「こども食堂」などの市民団体と連携して利用してもらおう。その様子を当事者にフィードバックすることによって、当事者は自宅に居ながら外の人とのつながりを感じてもらおうことができる。</p> <p>④プレゼンテーション練習会(2日間×2回) 「居場所」に参加することはできたとしても、就労に向けて行動したり、一般社会に関わったりすることには不安があり、次の一歩を踏み出せない当事者も多い。そのような当事者に対して、プレゼンテーションについて学び、練習する機会を作る。人前に立って話をする経験をするにより、受け身</p>

	<p>でいるのではなく自ら行動する意欲や自信を得ることができる。</p> <p>2 スケジュール</p>		
	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
	4～5	①つたわり開催 ②風の家「ほう」開催 ③たい肥づくり・ハーブ栽培参加者募集開始	①運営スタッフ2名、まつど市民活動サポートセンター 調理室 ②同2名、常盤平いきいきサロン2階/コミュニティカフェ ChoshiYa ③運営スタッフ3名、松戸市内各所
	6～8	①つたわり開催 ②風の家「ほう」開催	①運営スタッフ2名、まつど市民活動サポートセンター 調理室 ②同2名、常盤平いきいきサロン2階/コミュニティカフェ ChoshiYa
	9	①つたわり開催 ②風の家「ほう」開催 ④プレゼンテーション練習会	①運営スタッフ2名、まつど市民活動サポートセンター 調理室 ②同2名、常盤平いきいきサロン2階/コミュニティカフェ ChoshiYa ④同3名、外部講師、まつど市民活動サポートセンター 会議室
	10～1	①つたわり開催 ②風の家「ほう」開催	①運営スタッフ2名、まつど市民活動サポートセンター 調理室 ②同2名、常盤平いきいきサロン2階/コミュニティカフェ ChoshiYa
	2	①つたわり開催 ②風の家「ほう」開催 ④プレゼンテーション練習会	①運営スタッフ2名、まつど市民活動サポートセンター 調理室 ②同2名、常盤平いきいきサロン2階/コミュニティカフェ ChoshiYa ④同3名、外部講師、まつど市民活動サポートセンター 会議室
	3	①つたわり開催 ②風の家「ほう」開催	①運営スタッフ2名、まつど市民活動サポートセンター 調理室 ②同2名、常盤平いきいきサロン2階/コミュニティカフェ ChoshiYa
既存の事業からステップアップする部分	<p>これまで実施してきた当事者が集まる場づくり（つたわり）を軸にしてさらに対象を広げて、外出が難しい状態の当事者や外出はできるが社会活動への参加や就労に不安がある当事者に向けた事業にも取り組んでいく。</p>		
事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会につながろうとするひきこもり当事者が増える。 【「つたわり」参加人数 72人（各回平均6人）】 【「ほう」参加人数 72人（各回平均3人）】 【たい肥づくり・ハーブ栽培参加人数 15人】 ・ 当事者の社会参加に対する自信と行動する意欲を高める。 【プレゼンテーション練習会参加人数 16人（各回平均8人）】 		
今後の展望	<p>ひきこもり以外のいろいろな分野で活動している地域の市民団体・NPO とのつながりを作る。それらの団体と連携し、行動できる状態となった当事者が地域社会とつながりを作れるようにする仕組みづくりを行う。</p>		

事業の予算概要

【収入】

(単位: 円)

	科目	金額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 56,540	事業費の一部を団体の会計より拠出
	「つたわり」参加費	¥ 21,600	300円×6人×12回
	「はう」参加費	¥ 7,200	100円×3人×24回
	「プレゼンテーション練習会」参加費	¥ 8,000	500円×8人×2回
	自己資金の合計額 (A)	¥ 93,340	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 300,000	
	合計額 (C) = (A+B)	¥ 393,340	

【支出】

	科目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 100,000	外部講師謝礼 (プレゼンテーション練習会) 25,000円×1人×2日×2回
	消耗品費	¥ 49,520	LFCコンボセット (たい肥づくり・ハーブ栽培) 4,994円×5人
			ハーブ栽培キット (たい肥づくり・ハーブ栽培) 550円×4個×10人
			台ふきん (つたわり) 300円×3箱
			洗剤、スポンジ (つたわり) 1,100円
			コップ (つたわり) 550円
	食糧費	¥ 100,000	食材、飲み物 (つたわり) 1,000円×8人×12回 参加者用お茶菓子 (プレゼンテーション練習会) 1,000円×2日×2回
	印刷製本費	¥ 10,120	チラシ印刷 (つたわり 両面4色 300部) 7,434円×300部
			チラシ印刷 (風の家「はう」 両面4色 300部) 7,434円×300部
			チラシ印刷 (プレゼンテーション練習会 両面4色 300部) 7,434円×300部×2回
			当日配布資料コピー (プレゼンテーション練習会) 10円×60枚×2回
	使用料および賃借料	¥ 83,300	会場使用料 (つたわり まつど市民活動サポートセンター 調理室) 380円×5時間×12回
			会場使用料 (風の家「はう」 常盤平いきいきサロン2階) 100円×5人×12回
			会場使用料 (風の家「はう」 コミュニティカフェ ChoshiYa) 500円×5時間×12回
			会場使用料 (プレゼンテーション練習会 まつど市民活動サポートセンター 会議室) 220円×5時間×2日×2回
ZOOMプロ 年間使用料 (つたわり オンライン開催用) 20,100円 (月額1,675円×12か月)			
	対象経費の合計 (D)	¥ 342,940	
その他経費	交通費	¥ 50,400	運営メンバーの交通費 (つたわり) 600円×2人×12回
			運営メンバーの交通費 (風の家「はう」) 600円×2人×24回
			運営メンバーの交通費 (プレゼンテーション練習会) 600円×3人×2日×2回
	その他経費の合計 (E)	¥ 50,400	
	合計額 (F) = (D+E)	¥ 393,340	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 1 6

《 ステップアップ助成 》

みんなで育て、みんなでつくる
沿道での食べられる景観事業

エディブルウェイプロジェクトチーム

事業計画書

	事業名	みんなで育て、みんなで作る 沿道での食べられる景観事業
	団体名	エディブルウェイプロジェクトチーム
事業概要		
沿道の住宅前や店舗前等で、野菜やハーブなど食べられる植物を育てる「食べられる景観」づくりを通し、住民の交流を促進し、人と人のつながりやコミュニティの輪を広げる。植物クラフトづくりから、地域環境を学び合う場を創出する。		
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>新型コロナウイルス感染予防のため、外出を控え、対面での交流を減らす等の対策がとられてきました。プロジェクトの中心地域である松戸三丁目東自治会でも各イベントが中止になっています。日本老年学的評価研究は、社会的孤立や閉じこもりが高齢者の健康リスクを高めることを指摘しています。ウィルス対策が長期化する中、いかに社会的距離を保ち、コミュニケーションがとれるかが今後の地域社会において、重要な課題と考えられます。</p> <p>私たちは、2016年より、コミュニケーションを促し、コミュニティの形成に寄与するとされる「食べられる景観」づくりを行ってきました。コロナ禍において沿道での園芸活動は、近所同士の挨拶程度の交流の維持、プランターを見て楽しむ、歩行を促し健康維持への貢献、植物が育つ様子を見ることで、参加者同士の間接的なコミュニケーション等に役立っています。</p> <p>園芸活動、植物を使ったものづくり活動を媒介にした直接的・間接的なコミュニケーションから、コロナ禍の地域において人のつながりが分断されない健康的な生活環境づくりに取り組みたいと考えています。</p>	
事業の目的	<p>野菜やハーブを用いたユニークな景観づくりと沿道でのコミュニケーション機会の創出から、日常的に挨拶できる近所づきあいを増やすこと。また、育てた植物を使ったものづくりを通じ、地域環境を学び合う機会や、多世代での交流の機会をつくること。そして、コロナ禍の地域においても、人のつながりが分断されない地域を目的としています。</p>	
事業内容	<p>1. 事業内容 年間を通じて、野菜やハーブを育て、食べられる景観づくりを行います。また、講座(2)(3)(4)は、外部講師を招き、地域での学び合いの場を充実させます。各回とも、新型コロナウイルス感染症予防対策を行います。</p> <p>(1) 苗・タネ配布交換会、植え替え活動（4-5月・9-10月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苗・タネ配布交換会を開き、来年度以降の継続の仕組みづくりをする。 ・高齢者宅など、必要に応じ、植え替えサポートを行う。 ・設置から7年経過し、劣化してきた布製プランターをリニューアルする。 ・プランターに設置している屋外サイン（育てている植物を示す札）のリニューアル、クラフトサイン（令和3年度に設置）の補修を行う。 <p>(2) タネ取り・育苗講座開催（8・3月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降の自立的な活動継続に向けて、タネ取りと育苗講座を開く。 ・来年度以降、タネ・苗を自分たちで生産できるような仕組みをつくる。 <p>(3) 子ども向けクラフトワークショップ（以下WSと記載）の開催（6・11月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物クラフトWSを開催し、ものづくりを通じた学びと交流の場を設ける。 <p>(4) ハーブクラフト講座（7・12月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハーブの使い方、楽しみ方を学び、活動への意欲向上と交流を進める。 	

	<p>(5)情報発信：千葉大学学生有志グループみどりの回廊ワーキンググループと発行する瓦版への毎月の掲載・配布。SNS、ホームページでの情報発信。 3月に活動記録をまとめた冊子を作り、参加者、地域住民に配布し、活動への理解と参加・協働を促進する。</p> <p>2. スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>①実施体制、②対象、③場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4-5月・ 9-10月</td> <td>講座準備、チラシで告知、 (1)タネ・苗配布交換会、 植え替え活動</td> <td>①実施体制：会員有志、②対象：EW参加者、③場所：松戸三丁目東自治会館または市民会館、無料開催</td> </tr> <tr> <td>8・3月</td> <td>(2)タネ取り・育苗講座</td> <td>①会員有志、外部講師、②EW参加者、③自治会館または市民会館、有料開催（参加費500円、定員15名、2回）</td> </tr> <tr> <td>6月・ 11月</td> <td>(3)クラフトWS開催</td> <td>①会員有志、外部講師、②地域の小学生、③自治会館または市民会館、有料開催（参加費1000円、定員10名、2回）</td> </tr> <tr> <td>7月・ 12月</td> <td>(4)ハーブクラフト講座開催</td> <td>①会員有志、外部講師、②地域住民、③自治会館または市民会館、有料開催（参加費1500円、定員10名、2回）</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	①実施体制、②対象、③場所など	4-5月・ 9-10月	講座準備、チラシで告知、 (1)タネ・苗配布交換会、 植え替え活動	①実施体制：会員有志、②対象：EW参加者、③場所：松戸三丁目東自治会館または市民会館、無料開催	8・3月	(2)タネ取り・育苗講座	①会員有志、外部講師、②EW参加者、③自治会館または市民会館、有料開催（参加費500円、定員15名、2回）	6月・ 11月	(3)クラフトWS開催	①会員有志、外部講師、②地域の小学生、③自治会館または市民会館、有料開催（参加費1000円、定員10名、2回）	7月・ 12月	(4)ハーブクラフト講座開催	①会員有志、外部講師、②地域住民、③自治会館または市民会館、有料開催（参加費1500円、定員10名、2回）
実施月	具体的な取り組み	①実施体制、②対象、③場所など														
4-5月・ 9-10月	講座準備、チラシで告知、 (1)タネ・苗配布交換会、 植え替え活動	①実施体制：会員有志、②対象：EW参加者、③場所：松戸三丁目東自治会館または市民会館、無料開催														
8・3月	(2)タネ取り・育苗講座	①会員有志、外部講師、②EW参加者、③自治会館または市民会館、有料開催（参加費500円、定員15名、2回）														
6月・ 11月	(3)クラフトWS開催	①会員有志、外部講師、②地域の小学生、③自治会館または市民会館、有料開催（参加費1000円、定員10名、2回）														
7月・ 12月	(4)ハーブクラフト講座開催	①会員有志、外部講師、②地域住民、③自治会館または市民会館、有料開催（参加費1500円、定員10名、2回）														
<p>既存の事業からステップアップする部分 (ステップアップ助成のみ)</p>	<p>これまでは、タネと苗は購入し、配布会を実施し、植え替え活動を行ってきた。来年度以降、自立的な活動運営のために、各家庭で育てたタネや苗の交換会を開催し、お金をかけずに活動を継続する仕組みづくりをする。そのために、令和5年度は、タネ取り、育苗講座を開き、各参加者がタネ、苗を育てる知識と経験を身につける。</p> <p>各講座に、専門的な知識を持つ外部講師を招くことで、景観づくりとしても、学びの場づくりとしても、より充実した講座を提供する。講座で得られた知識は、これまでの活動とともに、今後の活動の発展性や継続性のためにアウトプットへまとめ、地域住民や、食べられる景観づくりに関心のある市民に共有し、身近な地域環境づくりの啓蒙活動につなげる。</p>															
<p>事業の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設置後5年以上経ち、劣化しているプランター40個を刷新し、景観改善をはかる。 ・新規参加者が5世帯10プランター増えることを目指す。 ・現参加者とタネ取り、育苗を学び、令和6年度の植え替えは、タネ・苗は交換会として開催できることを目標とする。 ・コロナ禍で、人が集まる機会が減った地域において、沿道で見楽しむ、歩く楽しみを提供する。 ・植物を用いたイベントの開催を行い、学びや交流の場づくりを通して、活動を継続するための知識共有や組織づくりを進める。 															
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食べられる景観づくりの地域景観や活動としての定着。 ・松戸市内へも、食べられる景観づくりの普及啓発を行う。 ・コロナ禍においても人のつながりが分断されない健康的な生活環境のあり方を地域の皆さんと考えていく。 ・植物を活用する活動を通し、地域環境を学び合う場づくりの創出を行う。 ・令和6年度以降、市内のイベントなどで、自分たちで生産した苗などの販売をし、活動資金を調達し、活動継続できることを目指す。 															

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

	科目	金額	積算内訳
団体	イベント(WS・講座)参加費	¥ 65,000	(2)講座(育苗/タネ取り)500円*15人*2回、(3)クラフトWS 1000円*10人*2回、(4)ハーブクラフトWS 1500円*10人*2回
	団体拠出金	¥ 23,200	対象事業費の一部及び対象経費を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 88,200	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 300,000	
合計額 (C) = (A + B)		¥ 388,200	

【支出】

	科目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 120,000	講座外部講師謝礼金(20,000円*6回)
	消耗品費	¥ 139,800	[プランター栽培] ・フェルトプランター(400円*50個) ・プランターロゴ印刷シルクスクリーン版(3000円) ・シルクスクリーンインク(3000円*2個) ・土再生材 10kg(5500円*2個) ・タネ(300円*20個) ・育苗キット(300円*30個) ・屋外サイン作成用ラミネーター(8800円) ・クラフトサイン材料費(フェルト、防水ボンド等一式)(3000円) [クラフト] ・クラフト材料費(フェルト、蜜蝋、麻紐等一式)(10000円*2回) ・クラフト道具類一式(ナイフ、工具等一式)3000円 ・ハーブクラフト材料費(花材、アロマオイル等一式)(10000円*2回) ・ハーブクラフト道具類(ボウル、スプーン等一式)3000円 [活動全般] ・プリンタートナー(告知チラシ、講座・WS資料等印刷)(4000円*4色) ・参考書籍(園芸・クラフト等)(2000円*3冊) ・文具類一式(付箋、封筒、コピー用紙等一式)5000円
	使用料及び賃借料	¥ 24,200	・自治会館(イベント8回・準備・打ち合わせ4回)1600円*12回 ・シルクスクリーン工房使用料(1日5000円)
	食糧費	¥ 6,600	・参加者お茶代(100円*10人)*6回 ・講師お茶代(100円*6回)
	通信運搬費	¥ 3,360	・植え替え時アンケート回収用切手 84円* 20世帯(メールなし)*2回
	印刷製本費	¥ 46,000	・互版印刷費(A4両面カラー100部・プリントネット)1500円*4回 ・アウトプット冊子印刷製本(A5・20ページ)80円*500部
	保険料	¥ 2,240	・ワークショップ保険料 20名まで560円*4回
	対象経費の合計 (D)	¥ 342,200	
	その他経費	お弁当代	¥ 8,000
植え替え資材運搬用交通費		¥ 5,000	レンタカー代
講師交通費		¥ 12,000	2000円*6回
学生スタッフ交通費		¥ 16,000	2名分往復2000円*イベント8回
ホームページサーバーレンタル年間		¥ 3,000	
ホームページドメイン年間		¥ 2,000	
その他経費の合計(E)		¥ 46,000	
合計額 (F) = (D + E)		¥ 388,200	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 1 7

《 スタート助成 》

不登校の子どもたちの居場所づくり事業

EdFuture

事業計画書

事業名	不登校の子どもたちの居場所づくり事業
団体名	EdFuture

事業概要	
<p>松戸市で、不登校や学校に行きづらさを感じている子どもたち（主に小中学生）に居場所を提供し、学習支援やコミュニケーションを図る活動を行う。そのような活動のなかで、子どもたちの自己肯定感を高め、社会性を育む。</p>	
<p>取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）</p>	<p>不登校の児童生徒が全国的に増加しており、松戸市においても増加傾向にある。（全国の不登校の割合 小学校 H27：0.4% → R2：1.0%、中学校 H27：2.8% → R2：4.1%）</p> <p>教育支援センターなど松戸市の公的な不登校の居場所はあるが、旧松戸市立古ヶ崎南小学校に立地があり、子どもによっては電車やバスを利用して通わなければならない、不登校の子どもにとって通うハードルが高い。また、民間のフリースクールに関しても同様に立地の課題と、経済的負担の課題がある。そのため、多くの不登校の子どもは、家以外に居場所がなく、家で過ごすことが多い現状にある。また、不登校の子どもは、学校に登校している子どもに比べセルフ・エスティーム（自尊感情）が低い傾向にある。</p> <p>不登校の子どもたちが社会的自立するために、子どもが通える範囲で、無料の学校外の居場所を確保すること、学習機会の提供や人とのコミュニケーションを図るなかで自尊感情を高められる場が必要である。</p>
事業の目的	<p>不登校の子どもや、学校や家に居場所を感じられない子どもたちの居場所を作り、子どもたちの社会的自立を支援することを目的とする。</p> <p>子どもたちが笑えて、自己肯定感が高められる場とするために、不登校に関心がある学習支援員と共に、学習や調理実習、ボードゲームなどの活動を行う。活動のなかで子どもたちが、基礎的な学力やソーシャルスキルを身に付けられるよう支援する。</p>
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>① 毎週日曜日の 10～14 時に根木内会館を利用し、子どもたちの居場所を開く。学習支援や書道、調理実習、ボードゲーム、ソーシャルトレーニングなどの活動をする。不登校の子どもたちが参加しやすいように、申し込みは基本的に不要とし、行きたいと思えるときに現地に来てもらう。また、学習に関しても子どもたちが楽しんで勉強できるよう、海外にいる人とオンラインで繋いで英語を学ぶなど、子どもたちが楽しめる活動をメインとする。</p> <p>② 毎週日曜日の 10～14 時に Zoom を使用し、家から出ることができない子どもたちと根木内会館からオンラインでつながり、学習支援やコミュニケーションを図る。</p> <p>③ 保護者に同意を取ったのち、利用者（対象者）へ RSES-J のアンケートを実施し、評価を行う。</p> <p>RSES (Rosenberg's Self Esteem Scale) はアメリカのローゼンバーク</p>

	<p>という自尊感情について研究をしていた社会学者が開発した自尊感情尺度であり、日本語に翻訳されたものを日本版 RSES (RSES-J) という。RSES-J は 10 個の設問に対して回答者が 4 段階で評価を行う。</p> <p>④ チラシを松戸市にある町内の掲示板に掲示する。学校のスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、教員等に不登校の子どもがいる家庭にチラシの配布し、そして不登校の対象者に配布してもらうよう依頼する。また、地域の民生委員・児童委員にも同様に配布し、対象者がいた場合に配布してもらうよう依頼する。</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="430 604 1418 1489"> <thead> <tr> <th data-bbox="430 604 574 649">実施月</th> <th data-bbox="574 604 973 649">具体的な取り組み</th> <th data-bbox="973 604 1418 649">実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="430 649 574 918">4 月～3 月</td> <td data-bbox="574 649 973 918"> ①不登校の子どもの居場所づくり実施 ②不登校の子どものオンライン学習支援実施 ①②を年間で計 50 回実施 </td> <td data-bbox="973 649 1418 918"> 場所：根木内会館もしくはオンライン 対象：不登校を含む学校に行きづらさを感じている松戸市の小中学生 運営：構成員、外部学習支援員 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="430 918 574 1052">4 月</td> <td data-bbox="574 918 973 1052">④チラシを地区の掲示板に掲載する。 近隣の学校へ配布する。</td> <td data-bbox="973 918 1418 1052"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="430 1052 574 1142">7 月</td> <td data-bbox="574 1052 973 1142">①調理実習</td> <td data-bbox="973 1052 1418 1142">場所：小金原市民センター調理実習室</td> </tr> <tr> <td data-bbox="430 1142 574 1232">10 月</td> <td data-bbox="574 1142 973 1232">③中間評価</td> <td data-bbox="973 1142 1418 1232">対象者へ RSES-J のアンケートを実施し、評価する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="430 1232 574 1321">10 月</td> <td data-bbox="574 1232 973 1321">①調理実習（ハロウィン会）</td> <td data-bbox="973 1232 1418 1321">場所：小金原市民センター調理実習室</td> </tr> <tr> <td data-bbox="430 1321 574 1411">12 月</td> <td data-bbox="574 1321 973 1411">①調理実習（クリスマス会）</td> <td data-bbox="973 1321 1418 1411">場所：小金原市民センター調理実習室</td> </tr> <tr> <td data-bbox="430 1411 574 1489">3 月</td> <td data-bbox="574 1411 973 1489">③最終評価</td> <td data-bbox="973 1411 1418 1489">対象者へ RSES-J のアンケートを実施し、評価する。</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4 月～3 月	①不登校の子どもの居場所づくり実施 ②不登校の子どものオンライン学習支援実施 ①②を年間で計 50 回実施	場所：根木内会館もしくはオンライン 対象：不登校を含む学校に行きづらさを感じている松戸市の小中学生 運営：構成員、外部学習支援員	4 月	④チラシを地区の掲示板に掲載する。 近隣の学校へ配布する。		7 月	①調理実習	場所：小金原市民センター調理実習室	10 月	③中間評価	対象者へ RSES-J のアンケートを実施し、評価する。	10 月	①調理実習（ハロウィン会）	場所：小金原市民センター調理実習室	12 月	①調理実習（クリスマス会）	場所：小金原市民センター調理実習室	3 月	③最終評価	対象者へ RSES-J のアンケートを実施し、評価する。
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など																							
4 月～3 月	①不登校の子どもの居場所づくり実施 ②不登校の子どものオンライン学習支援実施 ①②を年間で計 50 回実施	場所：根木内会館もしくはオンライン 対象：不登校を含む学校に行きづらさを感じている松戸市の小中学生 運営：構成員、外部学習支援員																							
4 月	④チラシを地区の掲示板に掲載する。 近隣の学校へ配布する。																								
7 月	①調理実習	場所：小金原市民センター調理実習室																							
10 月	③中間評価	対象者へ RSES-J のアンケートを実施し、評価する。																							
10 月	①調理実習（ハロウィン会）	場所：小金原市民センター調理実習室																							
12 月	①調理実習（クリスマス会）	場所：小金原市民センター調理実習室																							
3 月	③最終評価	対象者へ RSES-J のアンケートを実施し、評価する。																							
<p>既存の事業からステップアップする部分 (ステップアップ助成のみ)</p>																									
<p>事業の目標</p>	<p>利用者は各回対面で 10 名、オンラインで 5 名を目標とする。 子どもたちが社会的自立するためのエネルギーとなる「自尊感情」がどれほど上昇したかによって評価を行う。 評価は、各対象者の RSES-J (自尊感情尺度) が初期評価 (通い始めた時期) と比べ、最終評価 (3 月) で上昇することを目指す。</p>																								
<p>今後の展望</p>	<p>① 家から出ることができない子どもたちに支援が行き届くようにするため、スタッフが家庭訪問できる体制を整える。 ② 子どもたちが通える範囲 (中学校区) に 1 か所、子どもたちの居場所を開設することを目指す。</p>																								

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

科目		金額	積算内訳
団体	寄付金	¥ 50,000	
	団体拠出金	¥ 84,294	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 134,294	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 234,294	

【支出】

科目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 100,000	外部の学習支援指導員への謝礼 1,000円×50回×2人
	通信運搬費	¥ 90,984	Zoom年間利用料 1,675×12か月 wifi使用料 5,907円×12か月
	印刷製本費	¥ 2,990	チラシ印刷 5.98円×500部
	消耗品費	¥ 9,000	調理実習食材 3,000円×3回
	消耗品費	¥ 20,000	数学や英語等の教科の教材 2,000円×10冊
	消耗品費	¥ 10,000	ボードゲーム 2,000円×5個
	使用料及び賃借料	¥ 1,320	小金原市民センター料理教室 440円×3回
対象経費の合計 (D)		¥ 234,294	
その他経費			
	その他経費の合計 (E)	¥ 0	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 234,294	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 18

《 スタート助成 》

「食」と「イベント」による体験型
子ども食堂事業

スープキッチンにじいろ

事業計画書

	事業名	「食」と「イベント」による体験型子ども食堂事業
	団体名	スープキッチンにじいろ
事業概要		
<p>体験型子ども食堂を通じて社会経験と、一人で来ても安心できる子どもの居場所を作る。 小学校、中学校と連携し、地域全体で支援が必要な子どもを、一人も取りこぼさないようにする。</p>		
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>ひとり親世帯の割合が増加傾向にあるため、孤食を防ぐ体験型子ども食堂を運営し子育ての悩み、不安を抱えている保護者の割合が未就園児 92.4%、小学生 96.8%、中学生 96.6%と非常に高く、子育てを孤育てにしない地域ネットワークづくりを図る</p>	
事業の目的	<p>体験型子ども食堂を通じ、子どもと保護者同士、地域とのつながりを育む。地域ネットワークを利用し、必要な物、情報を、必要な人、団体へ届ける。子どもたちのボランティア活動を推進し、幅広い世代の人との交流、社会貢献による、知識や知見、考え方の幅を広げてもらう。</p> <p>「食」により、孤食を防ぎ、栄養バランスの良い食事を提供する。</p> <p>「イベント」により、コロナ禍で子どもたちの体験が少なくなっているため、活動場所を提供する。</p>	
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>①子ども食堂の運営を月1回～2回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの孤食を防ぎ、地域保護者同士が気軽に雑談の中から、情報が共有できる場所を提供。（子ども同士で文具、絵具がないとの相談。保護者からも制服が買えないなどの相談があり、SNSを通して募集し、ピンポイントで支援している。） ・子どもの居場所づくりとして、読書、工作スペースを作る。 （読書：興味のある本をすぐに手に取ってもらえるよう、絵本、児童書、子育て本などを設置。工作：地域の絵画・造形教室より、折り紙や工作キットなど提供。） ・一人で過ごしたい子どもも、みんなで遊びたい子どもも、それぞれに合わせて安心できる居心地の良い居場所づくりをする。 ・栄養バランスの良い食事と共に、食育指導士が作った美味しいレシピを提供、受付にて配付。 ・次回開催の案内チラシは、参加者に配布及び近隣店舗並びに小学校に掲示依頼 <p>②「イベント」の開催（例：夏まつり、夏休み工作、防災、芋煮会、ハロウィン、クリスマスなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で減ったイベントを子ども食堂と同時開催とすることで、色々な体験をしてもらう。子どもたちの思い出作りだけでなく、季節ごとのイベントを取り入れることで、四季を感じ、豊かな情緒を育む経験をしてもらえる企画をする。（地域小学校からもいろんなイベントが中止になり、子どもたちの経験不足が心配との声がある。） 	

	<p>③森遊びなど、外部へ…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に1～2回自然と触れ合い、バーベキューや森の探検をし、いつもと違う経験を楽しんでもらう。 <p>④ボランティア活動への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアチケットを導入し、お手伝いしてくれた子どもへ本会で利用できるお手伝い券（仮）を発行。子ども食堂やイベント等の、有料ブースで使用してもらおう。 ・チケットにより、お金のルールを学び、ボランティアの達成感を味わってもらおう。（会場設営の準備、後片付け等） ・地域で見守りたい子どもの情報を共有し積極的に参加をしてもらおう。 ・高校生や大学生からもボランティアを募り、当活動を通じ保育や見守り、会場設営、撤去、受付・案内係などをしてもらおう。 <p>2 スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="448 790 1401 1182"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各月 1～2回</td> <td>体験型子ども食堂 ①②④</td> <td>高塚新田集会所、他 対象：地域子どもたち 運営スタッフ5名、会員、ボランティア5～10名</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>森あそび ③</td> <td>21世紀の森と広場 ③対象の子どもたち 運営スタッフ5名、会員、ボランティア10名</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	各月 1～2回	体験型子ども食堂 ①②④	高塚新田集会所、他 対象：地域子どもたち 運営スタッフ5名、会員、ボランティア5～10名	5月	森あそび ③	21世紀の森と広場 ③対象の子どもたち 運営スタッフ5名、会員、ボランティア10名
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など								
各月 1～2回	体験型子ども食堂 ①②④	高塚新田集会所、他 対象：地域子どもたち 運営スタッフ5名、会員、ボランティア5～10名								
5月	森あそび ③	21世紀の森と広場 ③対象の子どもたち 運営スタッフ5名、会員、ボランティア10名								
<p>既存の事業から ステップアップ する部分 （ステップアップ 助成のみ）</p>										
<p>事業の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回の子ども食堂の回数を、長期休み中給食のない子どもの為に回数を増やす。（現在年12回を、年16回以上を目標とする。） ・今までは一回30食を配食していたが、一回50食以上に増やす。 ・家庭の事情で親が付き添えない子どもでも、森遊びに参加してもらおう。 ・植物を知ることの楽しみや、子どもたち自らが遊びを考えて過ごす時間の提供。 ・学生ボランティアは本会活動を通じ、多世代交流や企画遂行力を学び社会経験を積んでもらう 									
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもの取りこぼさないよう、コミュニティを作る。 ・ひとり親の家庭、支援の必要な家庭への継続的な支援の輪を広げる。 ・引きこもりの子どもがイベントなら参加できるケースもあるため、学校以外の居場所づくり。 ・長期休み中は、開催時間の延長を図り子どもの居場所を作る。 									

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

	科 目	金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 62,000	団体会計より拠出
	寄付金	¥ 16,000	イベント開催時の募金箱より (1回1,000円程度×16回)
	参加費	¥ 72,000	300円×10人×15回 (大人参加費) 1,000円×12人×1回 (森遊び時、大人参加費) 300円×20人 (夏祭り工作材料費) 50円×3回×60人 (夏祭りイベント参加費) ※かき氷・ヨーヨーなど屋台体験費として
	自己資金の合計額 (A)	¥ 150,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 250,000	

【支 出】

	科 目	予算額	積算内訳
助 成 金 の 交 付 対 象 経 費	消耗品費	¥ 208,300	コピー用紙 (500枚) 500円×2セット インク 3,000円×2セット 食材 250円×50人×16回 イベント材料費 1,300円 (画用紙、絵の具、ひも)
	印刷製本費	¥ 2,000	チラシ印刷 (次回案内・レシビを参加者に配布) 5円×25枚×16回
	保険料	¥ 6,500	子ども食堂保険 千葉県子ども食堂保険 6,500円
	使用料及び賃借料	¥ 16,000	会場使用料 1,000円×13回 1,500円×2回
	対象経費の合計 (D)	¥ 232,800	
そ の 他 経 費	交通費	¥ 17,200	交通費 850円×16回(フードバンク往復ガソリン代) 300円×12回 (松戸市内関係各所、公共交通機関 バスなど)
	その他経費の合計 (E)	¥ 17,200	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 250,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

